

Pioneer *sound.vision.soul*

オーディオマスターユニット

AXM-P9

取扱説明書

目次 (4ページ)

carrozeria

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



必ず行う

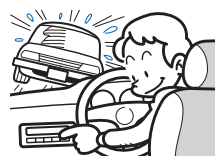
このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

警告

[使用方法]

運転中に操作をしない



禁止

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

走行中にDVDなどを見ない



禁止

運転者がDVDなどを見る時は、必ず安全な場所に車を停車させてください。走行中にDVDなどを見ると前方不注意となり、交通事故の原因となります。

[異常時の処置]

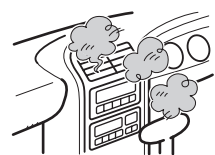
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

— CONTENTS

必ずお読みください

- 安全のために必ずお守りください 2
- 絵表示について
 - 安全上のご注意

はじめに

- 本機の特長 6
- 本機のデジタルソースとアナログソースについて 6
- バッテリー上がりを防ぐために 7
- 50枚型マルチCDプレーヤーの使用について 7
- この説明書のみかた 8
- 各部の名称 9
- コントローラーユニット
 - リモコン：DVDモード
 - リモコン：DEQモード
 - リモコン：AUDIOモード
- リモコンの準備 16
- リモコンの操作モード切り換えスイッチについて 16
- リバースモードについて 17
- ドルビーデジタル/DTSについて 17

共通の基本操作

- 電源をONにする 18
- ソースを選ぶ 18
- 音量を調節する 20
- 電源をOFFにする 20

マルチCDの操作

- マルチCDの基本操作 22
- ディスク選択/トラック選択/早送り・早戻し
- ファンクションモード・詳細設定モードの操作 24
- ファンクションモードの切り換え
 - 詳細設定モードの切り換え
 - リピート再生
 - ランダム再生
 - スキャン再生
 - ITS入力
 - ITS再生
 - ITS消去 (1曲ずつ)
 - ITS消去 (CDごと)
 - タイトル入力
 - ディスクタイトル表示
 - タイトル表示 (「CD TEXT」)
 - タイトルリスト
 - ポーズ
 - CDの音質を調整する

DVDの操作

- DVDの基本操作 36
- チャプター (トラック) 選択/早送り・早戻し
 - お気に入りの場面を記憶させる (ブックマーク)
- ファンクションモードの操作 38
- ファンクションモードの切り換え
 - リピート再生
 - ランダム再生
 - スキャン再生
 - ポーズ

音の調節

音の調節 44

- オーディオ調節のポイント

オーディオ調節モード・

詳細設定モードの操作 45

- オーディオ調節モードの切り換え
- 詳細設定モードの切り換え
- SFCで音場を再現する
- リスニングポジションを選ぶ
- 前後左右の音量バランスを調節する
- 各ソースの音量の違いをそろえる
- ダイナミックレンジコントロールを使う
- オリジナルの音声で聞く
- ドルビープロロジックIIを使う
- ダウンミックス機能を使う
- 接続したスピーカーを設定する
- クロスオーバー周波数を設定する
- スピーカーレベルを調節する
- テストトーンで
スピーカーレベルを調節する
- タイムアライメントを切り換える
- タイムアライメントを調節する
- オートイコライザーをON/OFFする
- オートタイムアライメント&イコライジング
を行う前に
- オートタイムアライメント&イコライジング
を行う
- イコライザーカーブを使う

初期設定

初期設定モードの切り換えかた 64

初期設定 66

- 時計を合わせる
- 夜間のディスプレイの明るさを調節する
- ディスプレイの明るさを調節する
- 音の歪みを補正する
- ミュート/アッテネート切り換え
- 外部機器の音声を聞く
- 外部機器の名称を入力する
- デジタル入力を設定する
- アナログ入力を設定する
- デジタル/アナログソースの名称を入力する
- オーディオ設定をリセットする

その他の機能

その他の機能 74

- 瞬時に音量を小さくする
- 時計を表示させる
- エンタテインメントを表示させる
- リモコンコードの設定
- デジタル出力の情報を表示させる
- よく使う機能を直接操作する

付録

故障かな?と思ったら 78

こんなメッセージが表示されたら .. 80

- エラーメッセージ
- オートタイムアライメント&イコライジング
のエラーメッセージ

保証書とアフターサービス 81

仕様 82

索引 83

- メニュー索引
- 用語索引

本機の特長

本機は、別売の5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」）を接続し、操作するために使用します。本機と「DEQ-P9」のシステムに、パイオニア製ナビゲーションユニットやパイオニア製DVDプレーヤー（「XDV-P9II」など）を組み合わせると、5.1チャンネルで収録された映画/音楽のDVDを臨場感豊かに再現できます。

また本機は、一般のカーステレオやそのほかの製品と接続するためのスピーカー入力端子とRCA入力端子を装備しています。本機とそれらの製品を接続することで、「DEQ-P9」の持つさまざまなオーディオ機能を使用できます。

本機に付属のリモコンで、別売のパイオニア製ナビゲーションユニット、パイオニア製DVDプレーヤー、パイオニア製マルチCDプレーヤー、パイオニア製メインユニットなどを操作できます。

本機のデジタルソースとアナログソースについて

本機には、2種類のデジタルソースと、6種類のアナログソースがあります。これらを用いて、「DEQ-P9」の持つさまざまなオーディオ機能をソースごとに使い分けられます。デジタルソースとしては、次のソースを使用できます。

- ・ナビゲーションユニットのDVD・CD
- ・DVDソースのDVD・ビデオCD・CD

アナログソースとしては、次のソースを使用できます。

- ・ナビゲーションユニットのTV・ミュージックサーバー
- ・純正カーステレオのソース

■ デジタルソースについて

● デジタルソース：光デジタルライン（OPT. IN 2）で接続した製品

本機と「DEQ-P9」のシステムに光デジタルラインで接続した製品（パイオニア製ナビゲーションユニットなど）は、デジタルソースとして使用できます。光デジタルラインは、必ず「DEQ-P9」のOPT. IN 2端子に接続してください。

この場合、Digital1（デジタルソース1）とDigital2（デジタルソース2）をソースごとに使い分けられます。

- ・パイオニア製ナビゲーションユニットを接続した場合は、本機のデジタル入力設定をONにしてください。（70ページ）
- ・デジタルソースは名称を変更できます。接続した製品に合った名称にすると、デジタルソースを使い分けるときに便利です。（72ページ）

● DVDソース：IP-BUSケーブルと光デジタルライン（OPT. IN 1）で接続した製品

本機と「DEQ-P9」のシステムにIP-BUSケーブルと光デジタルラインで接続した製品（パイオニア製DVDプレーヤーなど）は、DVDソースとして使用できます。光デジタルラインは、必ず「DEQ-P9」のOPT. IN 1端子に接続してください。

- ・デジタルソースとDVDソースは共存させることができます。

■ アナログソースについて

● アナログソース：スピーカー入力端子やRCA入力端子に接続した製品

本機のスピーカー入力端子やRCA入力端子に接続した製品は、アナログソースとして使用できます。アナログソースには、スピーカー出力端子やRCA出力端子を装備した製品を接続できます。

例えば、ラジオとカセットの2つのソースを持ったパイオニア製メインユニットを接続した場合は、ラジオをAnalog1（アナログソース1）、カセットをAnalog2（アナログソース2）のように設定すると、本機で別のソースとして使い分けられます。

・アナログソースは名称を変更できます。接続した製品に合った名称にすると、アナログソースを使い分けるときに便利です。（72ページ）

- ・アナログソースとして接続した製品が、複数のソースを持っている場合は、接続した製品と本機のそれぞれでソース切り換えを行ってください。また、本機のリモコンではアナログソースとして接続した市販の製品を操作することはできません。
- ・アナログソースとして接続した製品の音量を上げすぎると、音声が正しく出力されない場合があります。また、アナログソースとして接続した製品に、イコライザーやラウドネスなどの音質調整機能がある場合は、すべてOFFにしてください。
- ・アナログソースとして接続したい製品が、スピーカー出力端子とRCA出力端子の両方を装備している場合は、RCA出力端子と接続してください。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。エンジンがかかっていないときに本機を使用すると、バッテリーが消耗します。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作できません。本機で操作できるのは、この取扱説明書に記載されている機能のみです。

また、タイトルリストモードには切り換わりません。

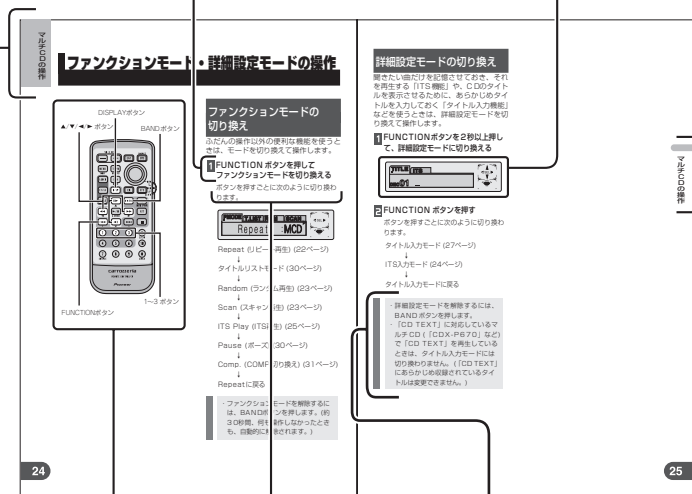
この説明書のみかた

章の見出しです。

操作方法が書いてあります。

画面表示です。

章の見出しです。



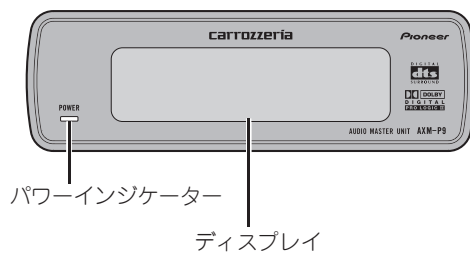
操作するボタンです。

知っておくと便利なことなどが書いてあります。

操作の結果が書いてあります。

各部の名称

■ コントローラーユニット



各部の名称

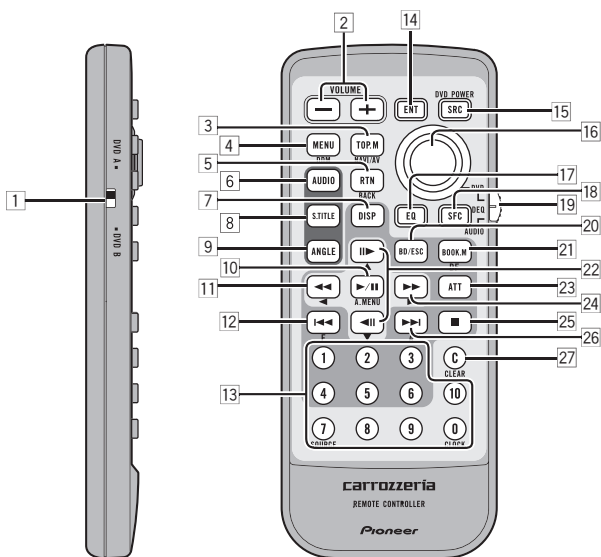
本機に付属のリモコンは、リモコンの操作モード（16ページ）によって、ボタンの機能が異なります。

■ リモコン： DVDモード



下記をご参照のうえ、リモコンの操作モードに対応した、正しいボタンを使用してください。

・リモコンの操作モードをDVDモードにすると、パイオニア製DVDプレーヤーの操作や設定の切り換えなどが行えます。



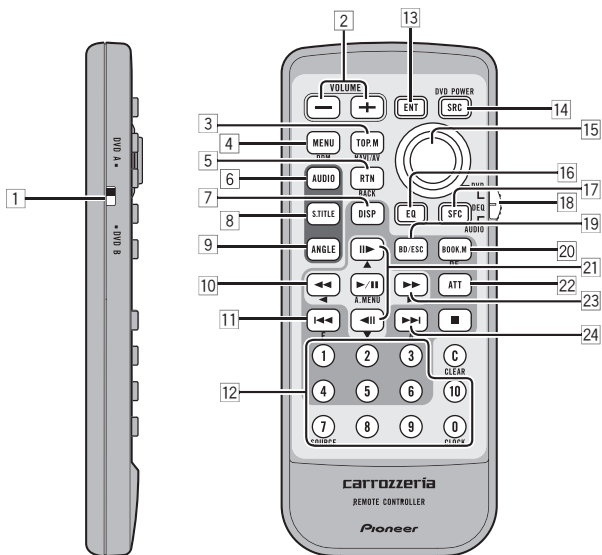
- 1 リモコンコード切り換えスイッチ
(76ページ)
- 2 VOLUME ボタン
ボリューム
- 3 TOP MENU (NAVI/AV) ボタン
トップメニュー
- 4 MENU (DDM) ボタン
メニュー
- 5 RETURN (BACK) ボタン
リターン
- 6 AUDIO (マルチ音声) ボタン
(DVD再生時のみ使用できます)
オーディオ
- 7 DISPLAY ボタン
ディスプレイ
- 8 SUBTITLE (マルチ字幕) ボタン
(DVD再生時のみ使用できます)
サブタイトル
- 9 ANGLE (マルチアングル) ボタン
(DVD再生時のみ使用できます)
アングル
- 10 ▶/|| (再生/一時停止)/A.MENU ボタン
- 11 ◀◀ (早戻し)/◀ ボタン
ファンクション
- 12 ◀◀ (スキップ)/FUNCTION ボタン
- 13 数字 (0～10) ボタン
エンタテインメント
- 14 ENTERTAINMENT ボタン
ソース
- 15 SOURCE ボタン
- 16 ジョイスティック
- 17 イコライザー
EQ ボタン
サウンド フィールド コントロール
- 18 SFC ボタン
- 19 操作モード切り換えスイッチ
(16ページ)
バンド/エスケープ
- 20 BAND/ESC ボタン
ブックマーク
- 21 BOOK MARK (DF) ボタン
(37ページ)
- 22 ||▶ (コマ送り)/▲ ボタン
◀|| (コマ戻し)/▼ ボタン
アッテネーター
- 23 ATT ボタン
(74ページ)
- 24 ▶▶ (早送り)/▶ ボタン
- 25 ■ (停止) ボタン
- 26 ▶▶ (スキップ)/AUDIO ボタン
オーディオ
- 27 CLEAR ボタン
クリアー

各部の名称

■ リモコン： DEQモード



- ・リモコンの操作モードをDEQモードにすると、5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」）を操作できます。また、パイオニア製マルチCDプレーヤーや、パイオニア製TVなどを接続したときは、それらを操作できます。



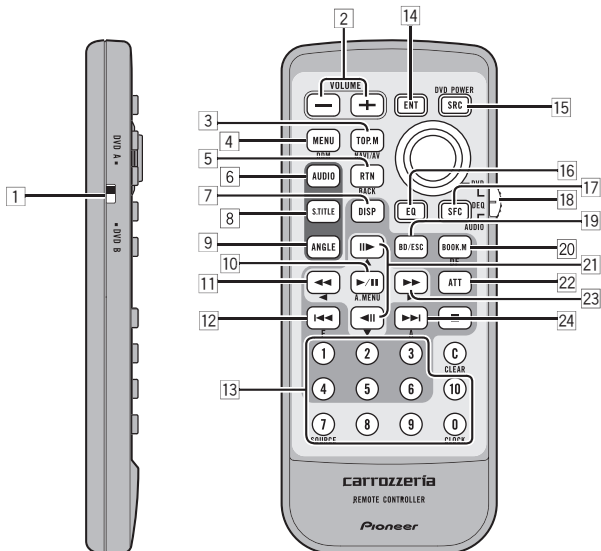
- 1 リモコンコード切り換えスイッチ
(76ページ)
- 2 **VOLUME** ボタン
ボリューム
トップメニュー
- 3 **TOP MENU (NAVI/AV)** ボタン
メニュー
- 4 **MENU (DDM)** ボタン
リターン
- 5 **RETURN (BACK)** ボタン
オーディオ
- 6 **AUDIO (マルチ音声)** ボタン
(DVD再生時のみ使用できます)
ディスプレイ
- 7 **DISPLAY** ボタン
サブタイトル
- 8 **SUBTITLE (マルチ字幕)** ボタン
(DVD再生時のみ使用できます)
アングル
- 9 **ANGLE (マルチアングル)** ボタン
(DVD再生時のみ使用できます)
- 10 ◀◀ (早戻し)/◀ ボタン
ファンクション
- 11 ◀◀ (スキップ)/FUNCTION ボタン
- 12 **数字 (0～10)** ボタン
1～6 ボタン： 1～6 ボタン
7 ボタン： SOURCE ボタン
(パイオニア製ヘッド
ユニットなどのソース
切り換えができます。)
0 ボタン： CLOCK ボタン
- 13 **ENTERTAINMENT** ボタン
エンタテインメント
- 14 **SOURCE** ボタン
ソース
- 15 **ジョイスティック**
パイオニア製DVDプレーヤーを操作する
ときに機能します。
- 16 イコライザー
EQ ボタン
サウンドフィールドコントロール
- 17 **SFC** ボタン
- 18 **操作モード切り換えスイッチ**
(16ページ)
バンド/エスケープ
- 19 **BAND/ESC** ボタン
ブックマーク
- 20 **BOOK MARK (DF)** ボタン
(77ページ)
- 21 **▶▶ (コマ送り)/▲** ボタン
◀◀ (コマ戻し)/▼ ボタン
アッテネーター
- 22 **ATT** ボタン
(74ページ)
- 23 **▶▶ (早送り)/▶** ボタン
オーディオ
- 24 **▶▶ (スキップ)/AUDIO** ボタン

各部の名称

■ リモコン： AUDIOモード



・リモコンの操作モードをAUDIOモードにすると、パイオニア製ナビゲーションユニットや、パイオニア製メインユニットなどの基本的な操作が行えます。



1 リモコンコード切り換えスイッチ

本機に付属のリモコンでパイオニア製ナビゲーションユニットなどをコントロールするには、リモコンコードを設定します。詳しくは、76ページを参照してください。

2 VOLUME ボタン

(パイオニア製メインユニットの音量調節には使用できません。)

3 TOP MENU (NAVI/AV) ボタン

パイオニア製ナビゲーションユニットのNAVI/AV ボタンとして使用できます。

4 MENU (DDM) ボタン

パイオニア製ナビゲーションユニットのDDM ボタンとして使用できます。

5 RETURN (BACK) ボタン

パイオニア製ナビゲーションユニットのBACK ボタンとして使用できます。

6 AUDIO (マルチ音声) ボタン (DVD再生時のみ使用できます)

7 DISPLAY ボタン

パイオニア製ナビゲーションユニットのDISPLAY ボタンとして使用できます。

8 SUBTITLE (マルチ字幕) ボタン (DVD再生時のみ使用できます)

9 ANGLE (マルチアングル) ボタン (DVD再生時のみ使用できます)

10 ▶/⏮ (再生/一時停止)/A.MENU ボタン

パイオニア製ナビゲーションユニットの A.MENU ボタンとして使用できます。

11 ◀◀ (早戻し)/◀ ボタン

パイオニア製メインユニットや、ナビゲーションユニットの ◀ ボタンとして使用できます。

12 ◀◀ (スキップ)/^{ファンクション}FUNCTION ボタン

パイオニア製メインユニットの FUNCTION ボタンとして使用できます。

13 数字 (0～10) ボタン

1～6 ボタン：パイオニア製ヘッドユニットの 1～6 ボタンとして使用できます。

7 ボタン：SOURCE ボタン
パイオニア製ヘッドユニットのソース切り換えができます。

0 ボタン：CLOCK ボタン

14 ^{エンタテインメント}ENTERTAINMENT ボタン

(パイオニア製メインユニットの ENTERTAINMENT ボタンとしては使用できません。)

15 ^{ソース}SOURCE ボタン

(パイオニア製メインユニットの SOURCE ボタンとしては使用できません。)

16 ^{イコライザー}EQ ボタン

(パイオニア製メインユニットの EQ ボタンとしては使用できません。)

17 ^{サウンドフィールドコントロール}SFC ボタン

(パイオニア製メインユニットの SFC ボタンとしては使用できません。)

18 操作モード切り換えスイッチ (16 ページ)

^{バンド/エスケープ}

19 BAND/ESC ボタン

パイオニア製メインユニットや、ナビゲーションユニットの BAND/ESC ボタンとして使用できます。

20 ^{ブックマーク}BOOK MARK (DF) ボタン (77 ページ)

パイオニア製メインユニットや、ナビゲーションユニットの DF ボタンとして使用できます。

21 ◀▶ (コマ送り)/▲ ボタン
▶▶ (コマ戻し)/▼ ボタン

パイオニア製メインユニットや、ナビゲーションユニットの ▲/▼ ボタンとして使用できます。

22 ^{アッテネーター}ATT ボタン (74 ページ)

パイオニア製ナビゲーションユニットの ATT ボタンとして使用できます。

23 ▶▶ (早送り)/▶ ボタン

パイオニア製メインユニットや、ナビゲーションユニットの ▶ ボタンとして使用できます。

24 ^{オーディオ}▶▶ (スキップ)/AUDIO ボタン

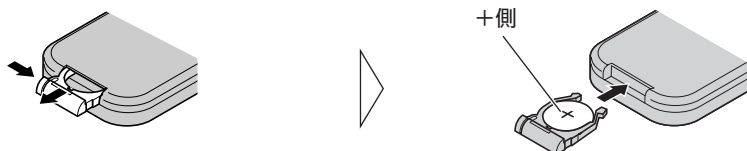
パイオニア製メインユニットの AUDIO ボタンとして使用できます。

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

■ リモコンに電池を入れる

電池ホルダーを取り出し、リチウム電池（CR2025）を図のようにしてセットします。はじめてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

- ・ リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- ・ 本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、リモコンを本体に近づけて操作してください。
- ・ 付属の電池は、充電しないでください。
- ・ リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- ・ 電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- ・ 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

リモコンの操作モード切り換えスイッチについて

本機に付属のリモコンには、DVDモード、DEQモード、AUDIOモードの3つの操作モードがあります。

■ DVDモードについて

リモコンの操作モードをDVDモードにすると、パイオニア製DVDプレーヤーの操作や設定の切り換えなどが行えます。

■ DEQ モードについて

リモコンの操作モードをDEQモードにすると、5.1ch対応・DSPユニット（「DEQ-P9」）を操作できます。また、パイオニア製マルチCDプレーヤーや、パイオニア製TVなどを接続したときは、それらを操作できます。

■ AUDIOモードについて

リモコンの操作モードをAUDIOモードにすると、パイオニア製ナビゲーションユニットや、パイオニア製メインユニットなどの基本的な操作が行えます。

・本機に付属のリモコンでは、スピーカー入力端子やRCA入力端子に接続した、市販の製品を操作することはできません。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON（またはACC）のときに本機の電源をOFFにして、リモコンの⑤ボタンを押してください。もう一度押すと、リバースモードがONになります。

ドルビーデジタル/DTSについて



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTSは米国Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。

■ 著作権について

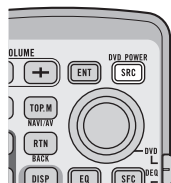
本機は、マクロビジョンコーポレーションおよび他の権利保有者が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、同社の許可がない限りは一般家庭及びそれに類似する限定した場所での視聴に制限されています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。

電源をONにする

電源 ON

1 SRC ボタンを押す

電源がONになります。



ソースを選ぶ

ソース選択

1 SRC ボタンを押す

SRC ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

Digital1 (デジタルソース 1) (別売)

→ Digital2 (デジタルソース 2) (別売)

→ TV (テレビ) (別売) → DVD (1枚型DVD/マルチDVD) (別売)

→ Multi CD (マルチCD) (別売) → External (エクスターナルユニット 1) (別売)

→ External (エクスターナルユニット 2) (別売) → AUX (外部機器) (別売)

→ Analog1 (アナログソース 1) (別売) → Analog2 (アナログソース 2) (別売)

→ Analog3 (アナログソース 3) (別売) → Analog4 (アナログソース 4) (別売)

→ Analog5 (アナログソース 5) (別売) → Analog6 (アナログソース 6) (別売)

→ Digital1 (デジタルソース 1) (別売) に戻る

- ・ 接続していないソースには切り換わりません。
- ・ ディスクやマガジンがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- ・ AUX (外部機器) の設定 (69 ページ) を ON にしないと、AUX には切り換わりません。
- ・ 本機にパイオニア製ナビゲーションユニットを接続した場合、本機のAUX (外部機器) の設定 (69 ページ) を ON にし、ソース切り換えでAUX ソースにすると、ナビゲーションユニットの音声は車両のスピーカーから出力されます。(ガイド音は車両のスピーカーからは出力されません。)
- ・ アナログソースとしては、ナビゲーションユニットのTV・ミュージックサーバーや純正カーステレオのソースなどを使用できます
- ・ デジタルソースとしては、ナビゲーションユニットのDVD・CDやDVDソースのDVD・ビデオCD・CDなどを使用できます。
- ・ 本機と「DEQ-P9」のシステムに光デジタルラインで接続した製品 (パイオニア製ナビゲーションユニットなど) は、ソースをDigital1とDigital2に割り当てることができます。この場合、Digital (デジタルソース) の設定 (70 ページ) を ON にしないと、Digital1とDigital2には切り換わりません。(Digital1は初期設定でOFFになっています。)
- ・ Analog (アナログソース) の設定 (71 ページ) を ON にしないと、Analog には切り換わりません。
- ・ 以下の状態のときは、**[SRC]** ボタンを押してソース選択しようとしても、警告音が鳴り、ソースが切り換えられません。
 - ※ ソースが1つも接続されていない場合
 - ※ パイオニア製DVDプレーヤー (「XDV-P9II」、「SDV-P7」など) だけを接続していて、DVDプレーヤーにマガジンやディスクがセットされていない場合

テレビ、マルチMDを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- ・ テレビ (「AVX-P7」など) の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。
- ・ 本機は、マルチMD (「MD-P100II」など) をエクスターナルユニットとして操作することができます。操作のしかたは、マルチMDの取扱説明書の「メインユニット③」を参照してください。

音量を調節する

音量調節

1 **+** / **-** ボタンを押す

+ : 大きくするとき

- : 小さくするとき

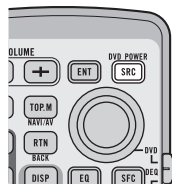


電源をOFFにする

電源OFF

1 **SRC** ボタンを1秒以上押す

電源がOFFになります。

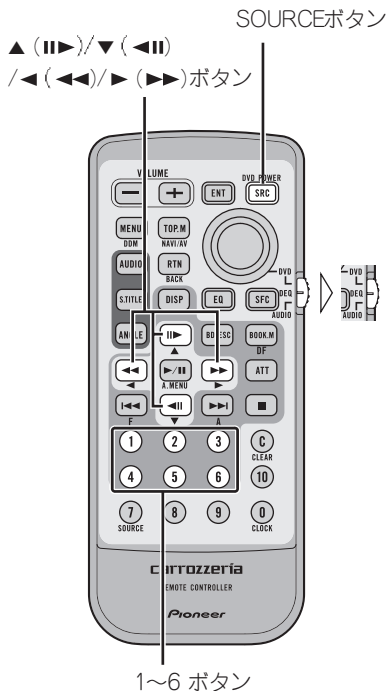


マルチCDの操作

マルチCDの基本操作

リモコンの操作モードがDEQモードの場合

- ・リモコンの操作モードがDEQモードの場合、マルチCDを操作できます。リモコンの操作モードがDVDモードやAUDIOモードの場合は操作できません。

ディスク選択/トラック選択/
早送り・早戻し

- 1 **[SRC]** ボタンを押して、ソースをマルチCDに切り換える (「ソースを選ぶ」18ページ)

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー (「CDX-P670」など) に「CD TEXT」をセットしているときは、ほかのソースからマルチCDに切り換えたときに、曲名を自動的に1回スクロール表示します。



- 2 **[▶ (▲) または ◀ (▼)]** ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶ

- [▶ (▲)]** : 次のCDを選ぶとき
- [◀ (▼)]** : 前のCDを選ぶとき

- **① ~ ⑥** ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶこともできます。7~12枚目のCDを選ぶ場合は、**① ~ ⑥** ボタンを2秒以上押します。



CD 番号

3 ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、再生したいトラックを選ぶ (または早送り/早戻し)

▶▶ (▶) : 次のトラックを選ぶとき
(または早送り)

◀◀ (◀) : 前のトラックを選ぶとき
(または早戻し)

トラック選択と早送り/早戻しの使い分け

トラックの選択	0.5秒未満
早送り/早戻し	0.5秒以上



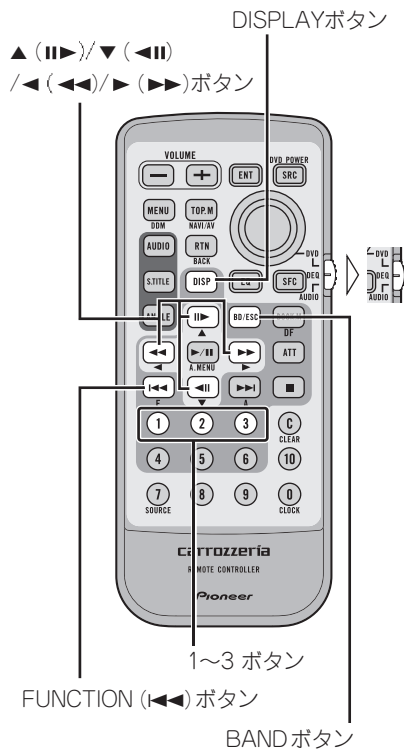
再生経過時間 曲番号

4 マルチCDの再生をやめる

ほかのソースに切り換えるか、電源をOFFにしてください(18、20ページ)。

- ・マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると“Ready”が表示されます。
- ・マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“NO MAGAZINE”が表示されます。

ファンクションモード・詳細設定モードの操作



ファンクションモードの切り換え

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを押して、ファンクションモードを切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Repeat (リピート再生) (26 ページ)



タイトルリストモード (34 ページ)



Random (ランダム再生) (27 ページ)



Scan (スキャン再生) (27 ページ)



ITS Play (ITS 再生) (29 ページ)



Pause (ポーズ) (34 ページ)



Comp. (Comp.切り換え) (35 ページ)



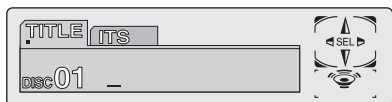
Repeat に戻る

- ・ファンクションモードを解除するには、**BD/ESC** ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときは、自動的に解除されます。)

詳細設定モードの切り換え

聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する「ITS機能」や、CDのタイトルを表示させるために、あらかじめタイトルを入力しておく「タイトル入力機能」などを使うときは、詳細設定モードを切り換えて操作します。

1 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押し、詳細設定モードに切り換える



2 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

タイトル入力モード (31 ページ)



ITS入力モード (28 ページ)



タイトル入力モードに戻る

- ・ 詳細設定モードを解除するには、**BD/ESC** ボタンを押します。
- ・ 「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)


リピート再生

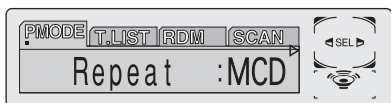
今聞いている曲や1枚のCDなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

再生範囲	リピート再生の内容
マルチCDリピート	マルチCDにセットされているすべてのCD（通常はこのモードにしておきます。）
トラックリピート	再生中のトラック
ディスクリピート	再生中のCD

- 1**  (FUNCTION) ボタンを押して、リピートモードを選ぶ




- 2**  (◀) または  (▶) ボタンを押して、再生範囲を切り換える



ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

TRK (トラックリピート)
↓
DISC (ディスクリピート)
↓
MCD (マルチCDリピート)
↓
TRK (トラックリピート) に戻る

- 3**  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

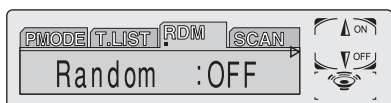
ランダム再生

選曲をマルチCDにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

1 リpeatモードにして、再生範囲を選ぶ

選んだ再生範囲内で、ランダム再生されます。

2 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを押して、ランダムモードを選ぶ



3 ▶▶ (▲) ボタンを押して、ランダム再生をONにする

次の曲から、ランダムに再生されます。

◀◀ (▼) ボタンでOFFになります。



4 BD/ESC ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

表示とランダム再生の範囲の関係は、次のようになっています。

表示	ランダム再生の範囲
D.RANDOM	ディスク
RANDOM	マルチCD

スキャン再生

今聞いているCDの曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。また、全CDの1曲目の出だしだけを次々に聞くこともできます。

1 リpeatモードにして、再生範囲を選ぶ

選んだ範囲内で、スキャン再生されます。

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、ディスクリピートにする

再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生できます。

■ 聞きたいCDをさがすとき (ディスクスキャン再生)

◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、マルチCDリピートにする

マルチCDのマガジン内にある全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

2 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを押して、スキャンモードを選ぶ



次ページへつづく

・トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がディスクに切り換わってランダム再生されます。

3 (▲) ボタンを押して、 スキャン再生をONにする

曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、ファンクションモードが自動的に解除されます。

表示とスキャン再生の種類の関係は、次のようになっています。

表示	スキャン再生の種類
T.SCAN	トラックスキャン
D.SCAN	ディスクスキャン



4 聞きたい曲 (CD) が再生されたら、 スキャンモードにしてから、 (▼) ボタンを押して、スキャン再生をOFF にする

- ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンモードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。



5 ボタンを押して、 ファンクションモードを解除する

- ・ スキャン再生を始めた曲 (または CD) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- ・ トラックリピートのとくに、スキャン再生をONにすると、再生範囲がディスクに切り換わってランダム再生されます。

ITS入力

記憶させた曲だけ再生する (「ITS 再生」) ために、聞きたい曲をマルチCDにあらかじめ記憶させておきます。

ITSについて

ITSとは、Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション) の略です。ITSは、聞きたい曲だけを記憶させておき、それを再生する (「ITS 再生」) 機能です。

- ・ 曲の記憶はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの記憶は消えません。
- ・ CD1枚につき99曲まで記憶することができます。(CDX-P1250、CDX-P650以前に発売されたマルチCDでは記憶できる曲が24曲までになります。)
- ・ ITSは、タイトル (「タイトル入力」31ページ) と合わせてCD100枚ぶん記憶できます。
- ・ 100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

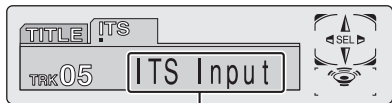
1 (▲) または (▼) ボタンを押して、記憶させたいCDを再生する

2 (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、 (FUNCTION) ボタンを押し、ITS入力モードを選ぶ



- 3 ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、記憶させたい曲を選ぶ

- 4 ||▶ (▲) ボタンを押して、記憶させる



約 2 秒間表示され、記憶したことを知らせます。

- 5 BD/ESC ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

ITS 再生

ITS 入力で記憶させた曲だけを再生することができます。

- 1 リピートモードにして、再生範囲を選ぶ (26 ページ)

選んだ再生範囲内で ITS 再生が行われます。

- 2 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを押して、ITS 再生モードにする



- 3 ||▶ (▲) ボタンを押して、ITS 再生を ON にする

ITS 再生がはじまり、記憶させた曲だけが再生されます。◀◀ (▼) で OFF になります。



- 4 BD/ESC ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・ 手順 1 で選んだ再生範囲内に、記憶させた曲がない場合は、“EMPTY” が約 2 秒間表示されて、ITS 再生は行われません。

ITS 消去 (1 曲ずつ)

記憶させた曲を 1 曲ずつ消すことができます。

- 1 ITS 再生を ON にする
- 2 ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、消去したい曲を再生する (23 ページ)
- 3 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを 2 秒以上押してから、◀◀ (FUNCTION) ボタンを押し、ITS 入力モードを選ぶ



- 4 ◀◀ (▼) ボタンを押して、消去する
再生していた曲が消去され、次に記憶されている曲が再生されます。



次に記憶されている曲

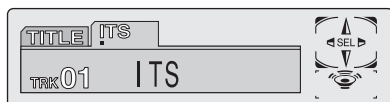
- 5 BD/ESC ボタンを押して、
詳細設定モードを解除する

・現在の再生範囲内に記憶させた曲がなくなった場合は、「ITS Empty」が約 2 秒間表示されて、ITS 再生が OFF になります。

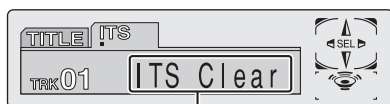
ITS 消去 (CD ごと)

記憶させた曲を CD ごとに消すことができます。

- 1 ITS 再生を OFF にする
- 2 ◀◀ (▲) または ▶▶ (▼) ボタンを押して、消去したい CD を選ぶ (22 ページ)
- 3 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを 2 秒以上押してから、◀◀ (FUNCTION) ボタンを押し、ITS 入力モードを選ぶ



- 4 ◀◀ (▼) ボタンを押して、消去する



約 2 秒間表示され、消去されたことを知らせます。

- 5 BD/ESC ボタンを押して、
詳細設定モードを解除する

タイトル入力

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルは、ディスプレイに表示させることができます。

タイトル入力について

タイトル入力は、CDのタイトルを入力して記憶させておき、ディスプレイに表示させる機能です。

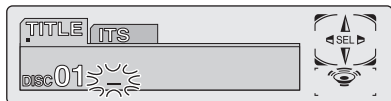
CDにタイトルをつけると、タイトルリスト(「タイトルリスト」34ページ)で聞きたいCDをさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されているCDタイトルで同様にタイトルリスト(「タイトルリスト」34ページ)を表示することができます。

- ・タイトルは10文字まで入力できます。
- ・記憶はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDの記憶は消えません。
- ・タイトルは、ITS(「ITS入力」28ページ)と合わせてCD100枚ぶん記憶できます。
- ・100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。
- ・「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)

1 (▲) または (▼) ボタンを押して、タイトルを入力したいCDを再生する(22ページ)

2 (FUNCTION) ボタンを2秒以上押してから、 (FUNCTION) ボタンを押し、タイトル入力モードを選ぶ

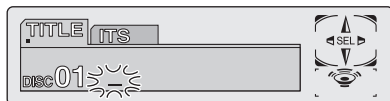


3 (◀) / (▶) / (◀) / (▶) ボタンを押して、タイトルを入力する

■ 入力する位置を選ぶ

(◀) : 左に移動させるとき

(▶) : 右に移動させるとき

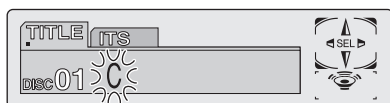


入力する位置でカーソルが点滅します。
10文字まで入力できます。

■ 入力する文字を選ぶ

(▲) : 次の文字を選ぶとき

(▼) : 前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

■ 入力する文字の種類を切り換える

①、②、③ ボタンを押すことで、入力する文字の種類が切り換えられます。押すボタンと選べる文字の関係は、次のようになっています。

押すボタン	選べる文字
① ボタン (① ボタンを押すごとに切り換わります)	アルファベットの小文字 (a~z)
② ボタン	アルファベットの大文字 (A~Z)、数字(0~9)、 記号(!、#、&など)、 空白()
③ ボタン (③ ボタンを押すごとに切り換わります)	数字(0~9)、 記号(!、#、&など)、 空白()
③ ボタン (③ ボタンを押すごとに切り換わります)	カタカナ(ア~ン)、 音引き(ー)、空白() 拗促音(ア、ヨ、ツなど)、 空白()

4 入力が終わったら、 10文字目を点滅させる




余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

5 ボタンを押して、 入力したタイトルを記憶させる



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルが記憶されます。

6 ボタンを押して、 タイトル入力モードを解除する

- ・タイトル入力中（文字が点滅しているとき）に  ボタンを押すと、詳細設定モードが途中で解除されます。（この場合、入力中のタイトルは記憶されません。）

ディスクタイトル表示

タイトル入力で入力したCDのタイトルを表示させることができます。

1 ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

再生経過時間表示



ディスクタイトル (Disc Title)



再生経過時間表示に戻る



- ・タイトルが入力されていないCDで表示を切り換えると、“No Disc Title”が表示されます。

タイトル表示 (「CD TEXT」)

「CD TEXT」に対応しているマルチCD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているとき、ディスクタイトル (ディスク名)、ディスクアーティストネーム (歌手名) などを表示させることができます。一度に全角で8文字、半角で16文字まで表示させることができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」とは、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記マークの付いているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。) 本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。



- ・表示を Disc Title (ディスク名)、Track Title (タイトル名) などに切り換えたときに、自動的に1回スクロール表示します。

表示切り換え

1 [DISP] ボタンを押して、表示を切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



- ・ TrackArtist Name (トラックアーティストネーム) などが収録されていないCDで表示を切り換えると、“NO T-Artist Name” などが表示されます。

隠れている文字を表示する


1 [DISP] ボタンを2秒以上押して、隠れているタイトルを表示する





隠れている文字が順に表示されます。


タイトルリスト


CDのタイトルを見ながら、聞きたいCDを選ぶことができます。

- 1**  (FUNCTION) ボタンを押して、タイトルリストモードにする




- 2**  (◀) または  (▶) ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶ

 (▶) : 次のCDのタイトルを表示させるとき

 (◀) : 前のCDのタイトルを表示させるとき




記憶されているタイトルが表示されます。また、そのCDのCD番号が点滅します。

- 3**  (▶) ボタンを押して、選んだCDを再生する




選んだCDが再生されます。

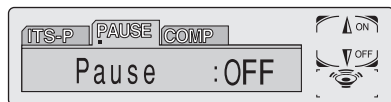
- 4**  (BD/ESC) ボタンを押して、タイトルリストモードを解除する


・タイトルが入力されていないCDでタイトルリストを行うと、“NO D-TITLE”が表示されます。

ポーズ


CD再生を一時停止することができます。

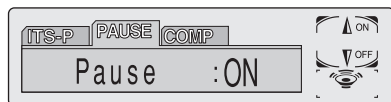
- 1**  (FUNCTION) ボタンを押して、ポーズモードにする




- 2**  (▶) (▲) ボタンを押して、ポーズをONにする

CD再生が一時停止します。

 (▼) ボタンでOFFになります。



- 3**  (BD/ESC) ボタンを押して、ファンクションモードを解除する



一時停止中に表示されます。

CDの音質を調整する

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりすることができます。(COMP/DBEに対応しているマルチCD(「CDX-P620S」など)の機能です。)

Comp.について

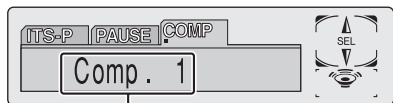
Comp.とは、Compression(コンプレッション)の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞きとりにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、Dynamic Bass Emphasis(ダイナミックバスエンファシス)の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 ◀▶ (FUNCTION) ボタンを押して、Comp.切り換えモードにする

- COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“No Comp.”が表示されて、操作できません。



現在のCOMP/DBEの状態が表示されます。

2 ◻▶ (▲) または ◻◻ (▼) ボタンを押して、機能を選ぶ

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Comp. OFF
↓
Comp. 1 (コンプレッション 1)
↓
Comp. 2 (コンプレッション 2)
↓
Comp. OFF
↓
DBE 1
↓
DBE 2
↓
最初のComp. OFFに戻る

3 ◻BD/ESC ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・ Comp.、DBEともに1より2の方が効果が大きくなります。

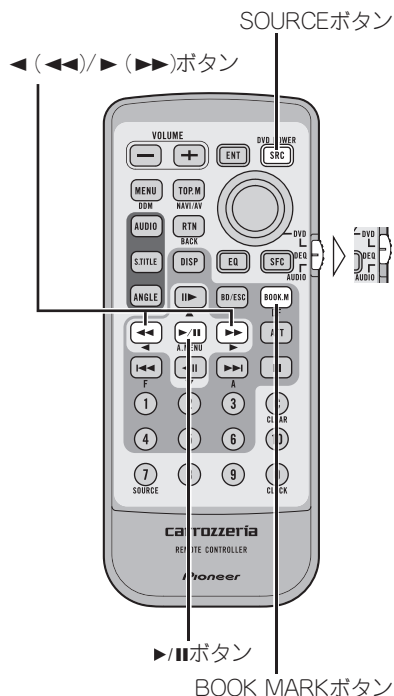
DVDの操作

DVDの基本操作

リモコンの操作モードがDVDモードの場合

・ここでは、リモコンの操作モードをDVDモードにした場合の操作のしかたを説明しています。

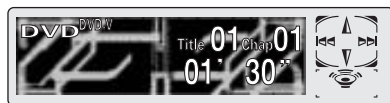
- ・操作するDVDプレーヤーによって、リモコンコードが異なります。詳しくは、76ページをご覧ください。
- ・DVDの操作の詳しい説明は、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- ・ナビゲーションユニットのDVDプレーヤーを使用する場合は、ナビゲーションユニットの取扱説明書をご覧ください。



CHAPTER (トラック) 選択/ 早送り・早戻し

1 SRC ボタンを押して、
ソースをDVDに切り換える
(「ソースを選ぶ」18ページ)

- DVDプレーヤーが準備動作（ディスクの情報の読み込みなど）をしているときは、画面に“Ready”が表示され、ボタンでの操作はできません。
- メニュー画面付きDVDの再生を開始すると、メニュー画面が表示されます。この場合は、リモコンのジョイスティックで再生を開始します。（操作のしかたは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。）



2 ◀ または ▶ ボタンを押して、再生したいチャプター(トラック)を選ぶ(または早送り/早戻し)

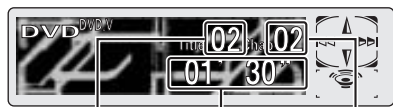
▶ : 次のチャプター(トラック)を選ぶとき(または早送り)

◀ : 前のチャプター(トラック)を選ぶとき(または早戻し)

チャプター(トラック)選択と早送り/早戻しの使い分け

チャプターの選択	0.5秒未満
早送り/早戻し	0.5秒以上

- ◀/▶ ボタンを5秒以上押し、ボタンから手を離しても早送り/早戻しが継続されます。見たい場所で再生/一時停止(▶||) ボタンを押すと、その場所から再生されます。
- ディスクによっては、早送り/早戻しできない場所があり、その場所にくると自動的に通常再生に切り換わります。



タイトル番号 再生経過時間 チャプター番号

3 DVDの再生をやめる

ほかのソースに切り換えるか、ディスクを取り出して電源をOFFにしてください。

お気に入りの場面を記憶させる(ブックマーク)

お気に入りの場面を記憶させおくと、次回その場面から再生が始められます。

対応する製品について

ブックマーク機能を備えたパイオニア製DVDプレーヤーで、DVDを再生しているときだけ操作できます。

記憶させる

1 記憶させたい場面の再生時に

BOOK.M (DF) ボタンを押す

次回、その場面から再生が始まります。

消去する

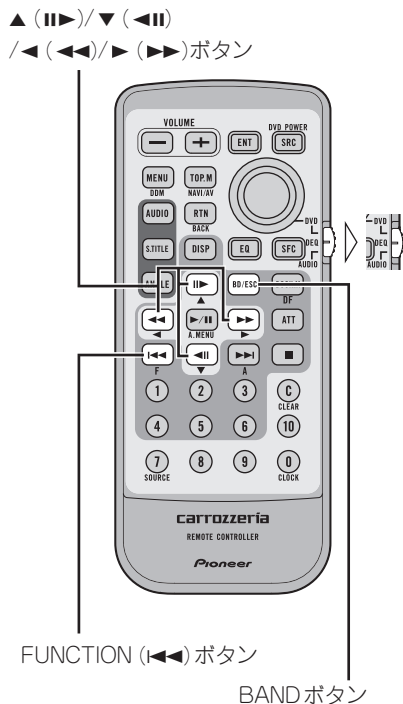
1 消去したいお気に入りの場面を含むDVDを再生する

2 BOOK.M (DF) ボタンを2秒以上押す

お気に入りの場面が消去されます。

- ・ 記憶させられる場面の数は、1枚のディスクにつき1場面です。
- ・ 記憶させられるディスクは、5枚までです。6枚以上のディスクでお気に入りの場面を記憶させた場合、いちばん古い記憶と新しい記憶が入れ替わります。

ファンクションモードの操作



ファンクションモードの切り換え

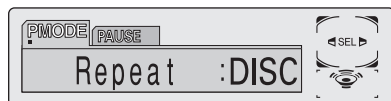
ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションモードを切り換えて操作します。

操作モードについて

ファンクションモードを使うには、リモコンの操作モードをDEQモードに切り換えます。

- 1 ◀◀ (FUNCTION) ボタンを押して、ファンクションモードを切り換える
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

■ DVDおよびビデオCDの場合



Repeat (リピート再生)
↓
Pause (ポーズ) (43ページ)
↓
Repeatに戻る

■ CDおよびMP3/WMAの場合



Repeat (リピート再生)
↓
Random (ランダム再生) (41ページ)
↓
Scan (スキャン再生) (42ページ)
↓
Pause (ポーズ) (43ページ)
↓
Repeatに戻る

・ファンクションモードを解除するには、BD/ESC ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときは、自動的に解除されます。)

リピート再生

今再生しているチャプター（トラック）や1枚のディスクなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。

再生範囲について

再生範囲（繰り返し間く範囲）の種類は、次のとおりです。

■ DVDの場合

再生範囲	リピート再生の内容
ディスクリピート	再生中のディスク（通常はこのモードにしておきます。）
チャプターリピート	再生中のチャプター
タイトルリピート	再生中のタイトル


■ ビデオCDおよびCDの場合

再生範囲	リピート再生の内容
トラックリピート	再生中のトラック

■ MP3/WMAの場合

再生範囲	リピート再生の内容
ディスクリピート	再生中のディスク（通常はこのモードにしておきます。）
トラックリピート	再生中の曲
フォルダーリピート	再生中のフォルダー

■ DVDの場合

- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、リピートモードを選ぶ



- 2  (◀) または  (▶) ボタンを押して、再生範囲を切り換える



ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

CHAP (チャプターリピート)




TITLE (タイトルリピート)



DISC (トラックリピート)




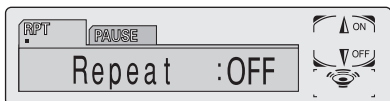
CHAP (チャプターリピート) に戻る


- 3  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

次ページへつづく


■ ビデオ CD の場合


- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、
リピートモードを選ぶ



- 2  (▲) ボタンを押して、
リピート再生を ON にする


今再生しているトラックを繰り返し再生
します。

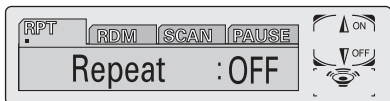
 (▼) ボタンで OFF になります。


- 3  ボタンを押して、
ファンクションモードを解除する

- ・プレイバックコントロール (PBC) 再生
中は、リピートを ON/OFF できません。
- ・本機は、接続する DVD プレーヤーに
よってはプレイバックコントロール
(PBC) 再生を解除できません。


■ CD の場合


- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、
リピートモードを選ぶ




- 2  (▲) ボタンを押して、
リピート再生を ON にする

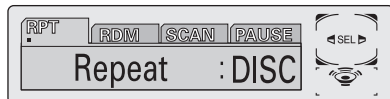
今再生しているトラックを繰り返し再生
します。

 (▼) ボタンで OFF になります。

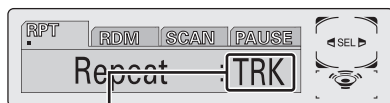
- 3  ボタンを押して、
ファンクションモードを解除する

■ MP3/WMA の場合

- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、
リピートモードを選ぶ



- 2  (◀) または  (▶) ボタンを
押して、再生範囲を切り換える



ボタンを押すごとに次のように
切り換わります。

TRK (トラックリピート)




FOLDER (フォルダーリピート)



DISC (トラックリピート)




TRK (トラックリピート) に戻る

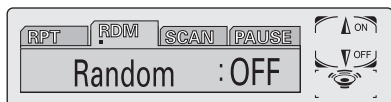
- 3  ボタンを押して、
ファンクションモードを解除する



ランダム再生

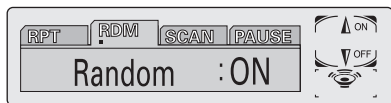
選曲をDVDプレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。


■ CDの場合

- 1**  (FUNCTION) ボタンを押して、ランダムモードを選ぶ




- 2**  (▲) ボタンを押して、ランダム再生をONにする
次の曲から、ランダムに再生されます。
 (▼) ボタンでOFFになります。

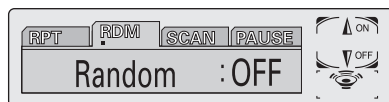




- 3**  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

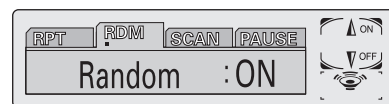
■ MP3/WAVの場合


- 1** リピートモードにして、再生範囲を選ぶ
選んだ再生範囲内で、ランダム再生されます。

- 2**  (FUNCTION) ボタンを押して、ランダムモードを選ぶ



- 3**  (▲) ボタンを押して、ランダム再生をONにする
次の曲から、ランダムに再生されます。
 (▼) ボタンでOFFになります。



- 4**  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

表示とランダム再生の範囲の関係は、次のようになっています。


表示	ランダム再生の範囲
F.RANDOM	フォルダー
RANDOM	ディスク

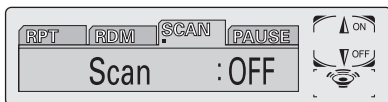
- ・トラックリピートのときに、ランダム再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わってランダム再生されます。


スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます。


■ CDの場合

- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、スキャンモードにする




- 2  (▲) ボタンを押して、スキャン再生をONにする
曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、ファンクションモードが自動的に解除されます。

- 3 聞きたい曲が再生されたら、スキャンモードにしてから、 (▼) ボタン押し、スキャン再生をOFFにする

- ファンクションモードが解除されていたら、手順1の操作を行ってもう一度スキャンモードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。

- 4  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

- ・ スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。

■ MP3/WMAの場合



- 1 リピートモードにして、再生範囲を選ぶ

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)


 (◀) または  (▶) ボタンを押して、フォルダーリピートにする

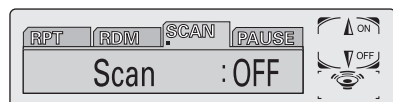
再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生できます。


■ 聞きたいフォルダーをさがすとき (フォルダースキャン再生)

 (◀) または  (▶) ボタンを押して、ディスクリピートにする

ディスク内の全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生できます。

- 2  (FUNCTION) ボタンを押して、スキャンモードを選ぶ




- 3  (▲) ボタンを押して、スキャン再生をONにする

曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。


- スキャン再生を始めて約30秒たつと、ファンクションモードが自動的に解除されます。

表示とスキャン再生の種類の関係は、次のようになっています。

表示	スキャン再生の種類
T.SCAN	トラックスキャン
F.SCAN	フォルダースキャン

- 4 聞きたい曲 (フォルダー) が再生されたら、スキャンモードにしてから、 (▼) ボタン押し、スキャン再生をOFFにする

- ファンクションモードが解除されていたら、手順2の操作を行ってもう一度スキャンモードにしてから、スキャン再生をOFFにしてください。


- 5  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

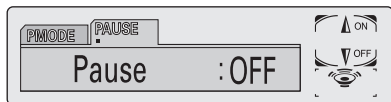
- ・ スキャン再生を始めた曲 (またはフォルダー) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- ・ トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーに切り換わってスキャン再生されます。


ポーズ

再生を一時停止することができます。


■ DVDおよびビデオCDの場合

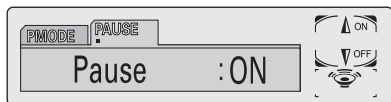
- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、ポーズモードにする




- 2  (▲) ボタンを押して、ポーズをONにする

再生が一時停止します。

 (▼) ボタンでOFFになります。




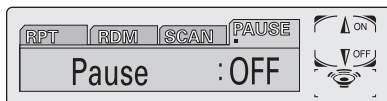
- 3  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する




一時停止中に表示されます。


■ CDおよびMP3/WMAの場合

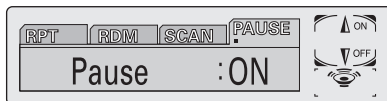
- 1  (FUNCTION) ボタンを押して、ポーズモードにする




- 2  (▲) ボタンを押して、ポーズをONにする

再生が一時停止します。

 (▼) ボタンでOFFになります。



- 3  ボタンを押して、ファンクションモードを解除する

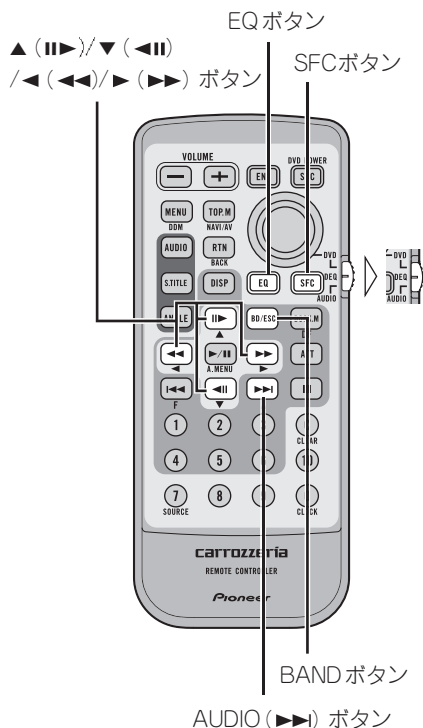


一時停止中に表示されます。

音の調節

リモコンの操作モードがDEQモードの場合

- ・リモコンの操作モードがDEQモードの場合、音の調節をすることができます。リモコンの操作モードがDVDモードやAUDIOモードの場合は操作できません。



オーディオ調節のポイント


次の順に設定や調節をすることで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

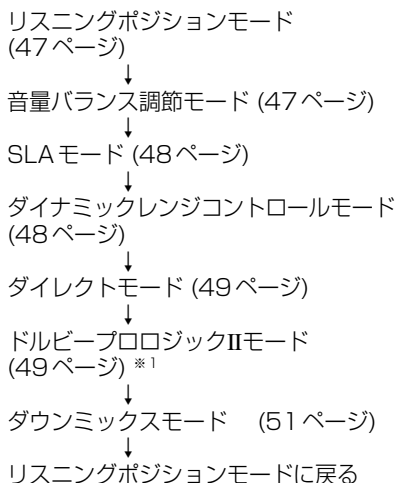
- 1 接続したスピーカーを設定する
(52ページ)
- 2 リスニングポジションを選ぶ
(47ページ)
- 3 オートタイムアライメント&
イコライジングを行う
(59、61ページ)
- 4 タイムアライメントを調節する
(57ページ)
- 5 テストトーンでスピーカーレベルを
調節する
(56ページ)
- 6 クロスオーバー周波数を設定する
(54ページ)
- 7 スピーカーレベルを調節する
(55ページ)
- 8 3バンドパラメトリックイコライザーを
調節する
(62ページ)

オーディオ調節モード・詳細設定モードの操作

音の調節は、オーディオ調節モードと詳細設定モードを切り換えて操作します。

オーディオ調節モードの切り換え


- 1  (AUDIO) ボタンを押して、オーディオ調節モードを切り換える
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

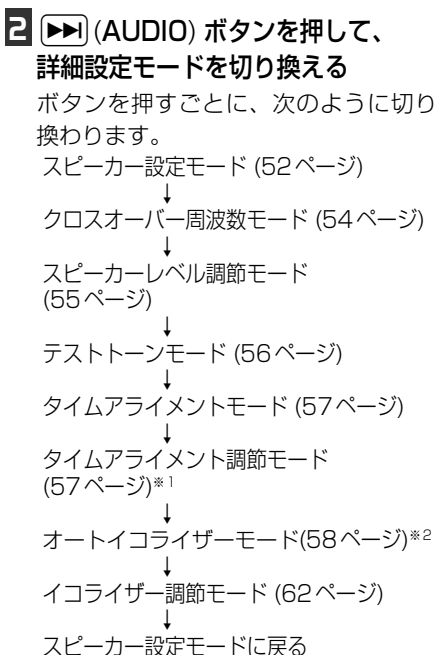


・オーディオ調節モードを解除するには、**[BD/ESC]** ボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときは、自動的に解除されます。)

*1 詳細設定モードのスピーカー設定モードで、リアスピーカーとセンタースピーカーの両方をOFFにすると(52ページ)、ドルビープロロジックIIモードには切り換わりません。

詳細設定モードの切り換え

- 1  (AUDIO) ボタンを2秒以上押して、詳細設定モードにする
詳細設定モードに切り換わります。



・詳細設定モードを解除するには、**[BD/ESC]** ボタンを押します。

*1 リスニングポジションモードでF/RかF/Lを選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

*2 オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、オートイコライザーモードは操作できません。

SFCで音場を再現する

SFCを使うと、実際の演奏会場のようなリアルな音場を再現できます。

SFC (Sound Field Control) について

演奏会場の音は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するからです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 SFC ボタンを押して、 SFCモードを切り換える



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

Musical → Drama → Action → Jazz
→ Hall → Club → OFF
→ Musical に戻る

SFCのモードについて

Musical

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

Drama

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

Action

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

Jazz

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

Club

ディスコの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

- ・ 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

リスニングポジションを選ぶ

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション（聞く位置）を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調節する機能です。SFCと組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体験することができます。

- 1 **▶▶ (AUDIO) ボタンを押して、リスニングポジションモードを選ぶ**



- 2 **▶▶ (▲) / ◀◀ (▼) / ◀◀ (◀) / ▶▶ (▶) ボタンを押して、リスニングポジションを選ぶ**

▶▶ (▶) : 右ハンドル車に運転者のみがいるとき

◀◀ (◀) : 左ハンドル車に運転者のみがいるとき

▶▶ (▲) : 同乗者が助手席にいるとき

◀◀ (▼) : 同乗者が後部座席にいるとき

同じボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります。



- 3 **BD/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する**

・ タイムアライメント (57ページ) を調節するには、リスニングポジションをF/RかF/Lのいずれかに設定してください。

前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

- 1 **▶▶ (AUDIO) ボタンを押して、音量バランス調節モードを選ぶ**



- 2 **▶▶ (▲) または ◀◀ (▼) ボタンを押して、前後の音量バランスを調節する**

▶▶ (▲) : 前を強めるとき

◀◀ (▼) : 後ろを強めるとき

前後のバランスは、F25 ~ R25の範囲で調節できます。



- 3 **◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、左右の音量バランスを調節する**

▶▶ (▶) : 右を強めるとき

◀◀ (◀) : 左を強めるとき

左右のバランスは、L25 ~ R25の範囲で調節できます。



- 4 **BD/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する**

各ソースの音量の違いを そろえる

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、各ソースの音量をそろえることができます。

- 1** **[SRC]** ボタンを押して、
調節したいソースに切り換える
(18ページ)

- 2** **[▶▶]** (AUDIO) ボタンを押して、
SLAモードを選ぶ



- 3** **[▶▶]** (▲)または **[◀◀]** (▼) ボタンを
押して、レベルを調節する

[▶▶] (▲)：レベルを大きくするとき

[◀◀] (▼)：レベルを小さくするとき

レベルは-4から+4の範囲で調節できます。



- 4** **[BD/ESC]** ボタンを押して、
オーディオ調節モードを解除する

- ・ SLAとはSource Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)の略です。
- ・ テレビ、DVD、エクスターナルユニット、AUX (外部機器)、デジタルソース、アナログソースのそれぞれの音量差を調節できます。なお、DVD・ビデオCD・CD・MP3/WMA、External1・External2、Analog5・Analog6は同じ設定になります。

ダイナミックレンジ コントロールを使う

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで、音量を下げた楽しむ場合に小さな音も聞きとりやすくすることができます。

- 1** **[▶▶]** (AUDIO) ボタンを押して、
ダイナミックレンジコントロール
モードを選ぶ



- 2** **[▶▶]** (▲) ボタンを押して、ダイナミ
ックレンジコントロールをONにする
[◀◀] (▼) ボタンでOFFになります。




- 3** **[BD/ESC]** ボタンを押して、
オーディオ調節モードを解除する


- ・ ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。
- ・ 本機と5.1ch対応・DSPユニット(「DEQ-P9」)のセットに、別売のDVD-VIDEO再生機能付きナビゲーションユニットを接続して、5.1chシステムとしてご使用される場合、「DEQ-P9」およびナビゲーションシステムのDRC(ダイナミックレンジコントロール)は使用できません。


オリジナルの音声で聞く

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。


- 1  (AUDIO) ボタンを押して、ダイレクトモードを選ぶ






- 2  (▲) ボタンを押して、ダイレクトモードをONにする

 (▼) ボタンでOFFになります。



- 3  ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ダイレクトがONの間は、音量調節と ( /  と  ボタン) とドルビープロロジックIIのみが有効です。そのほかのオーディオ調節は使用できません。
- ・2チャンネルのリニアPCM または2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、ダイレクトモードをONにすると、フロントスピーカー (左右) 以外から音声は出力されません。

ドルビープロロジックIIを使う

ドルビープロロジックIIを使うと、2チャンネルの音声を5チャンネルに拡張して全体域で再生することができます。オリジナルの録音の空間情報から、より立体的なサラウンド空間を作り出す先進的な機能です。従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明になり、音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ドルビープロロジックIIのON/OFFについて

2チャンネルのリニアPCM、または2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

ドルビープロロジックIIのモードについて

マトリックス (MATRIX)

方向性強調回路がオフになるため、シンプルなサラウンド再生になります。FMやTVなどのステレオ放送で受信状態が不安定な場合に適しています。

ミュージック (MUSIC)

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しめます。

ミュージックモードのパラメーターを調整することで、好みに合わせた空間表現を得ることができます (50ページ)。

ムービー (MOVIE)


映画やTVドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る立体的な音で楽しめます。

DolbyPLII OFF

ドルビープロロジックIIをOFFにします。

次ページへつづく

■ ドルビープロロジックIIモードの選択

- 1  (AUDIO) ボタンを押して、ドルビープロロジックIIモードを選ぶ




- 2  (▲)または  (▼) ボタンを押して、好みのモードを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

DolbyPLII OFF ↔ MATRIX
↔ MUSIC ↔ MOVIE

- 3  ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・スピーカー設定モード(52ページ)でセンタースピーカーまたはリアスピーカーを設定したときだけ、ドルビープロロジックIIモードに切り換わります。
- ・2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定をSMALLやLARGEにしている場合、センタースピーカーだけから音が出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。
- ・ドルビープロロジックIIは、48kHzのサンプリング周波数で動作します。そのほかのステレオソース値では効果がありません。

■ ミュージックモードの調節

ミュージックモードについて

パノラマ (Panorama)


フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して包み込みの効果を大きくします。

ディメンション (Dimension)


広音場の位置をフロント側、リア側に細かく調整します。-3~3の間で調整します。プラスはフロント側に、マイナスはリア(サラウンド)側に音を移動します。

センター幅 (Center W Control)

センターの音を、フロントのLRチャンネルとセンターチャンネルの3つのスピーカーにどのように振り分けるかを0~7の間で設定します。推奨は3で、ほとんどの録音に適しています。0は、センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。7は、通常ステレオと同様にセンターの音をフロントのLRに振り分けます。

- 1  ドルビープロロジックIIモードにして、ミュージック (MUSIC) を選ぶ



- 2  (▶) ボタンを押して、好みのモードを選ぶ

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Panorama
↔ Dimension
↔ Center W Control



- 3 (▲)または (▼) ボタンを押して、好みのモードを調節する

項目	設定/調節範囲
Panorama	ON / OFF
Dimension	-3~3
Center W Control	0~7

- 4 ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

ダウンミックス機能を使う

マルチチャンネルの音声を足し合わせて(ダウンミックスして)、2チャンネルの音声で再生することができます。

- 1 (AUDIO) ボタンを押して、ダウンミックスモードを選ぶ



- 2 (◀)または (▶) ボタンを押して、ダウンミックスの設定を選ぶ

(◀) : Lo/Ro

(▶) : Lt/Rt

表示	内容
Lo/Ro	オリジナルの音声がサラウンド成分のようなチャンネルモードを含まない場合、音声をステレオミックスします。
Lt/Rt	サラウンド成分を復元(デコード)できるようにダウンミックスします。

- 3 ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ DVD オーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。

接続したスピーカーを設定する

■ 各スピーカーの有無やサイズを設定する

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ(低音域再生能力)を設定できます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音をほかのスピーカーから出力させたり、再生により適したスピーカーから低音を出力させることができます。

スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定は、100 Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。再生可能な場合は、LARGEに、再生不可能な場合は、SMALLに設定してください。

オートタイムアライメント&イコライジングを行うときは、スピーカーの有無だけを設定してください。(スピーカーのサイズは自動的に計測されます。)

1 (AUDIO) ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードを選ぶ



2 (←) または (→) ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー ↔ センタースピーカー
 ↔ リアスピーカー ↔ サブウーファー
 ↔ サブウーファー位相切り換え*

3 (▶) または (▼) ボタンを押して、スピーカーの有無やサイズを設定する

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定
フロント	SMALL/LARGE
リア	OFF/SMALL/LARGE
センター	OFF/SMALL/LARGE
サブウーファー	OFF/ON
サブウーファー位相切り換え	Normal/Rev.




4 ボタンを押して、詳細設定モードを解除する



- ・ 接続していないスピーカーの設定は、必ずOFFにしてください。
- ・ サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力がある限り、スピーカー設定はLARGEを選んでください。フロントとリア両方のスピーカー設定をSMALLにすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
- ・ 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーを接続していないのに、センタースピーカーの設定をSMALLやLARGEにしている場合、音が出力されることがあります。
 - * センタースピーカーを接続し、センタースピーカーの設定をSMALLやLARGEにしている場合、センタースピーカーだけから音が出力されることがあります。
- * サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えには切り換わりません。

■ サブウーファーの位相を切り換える

サブウーファーからの低音域の出力を調節しても低音域が良く聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、ほかのスピーカーの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

- 1**  (AUDIO) ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードを選ぶ




- 2**  (◀) または  (▶) ボタンを押して、サブウーファー位相切り換えを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。


- フロントスピーカー ↔ センタースピーカー
- ↔ リアスピーカー ↔ サブウーファー
- ↔ サブウーファー位相切り換え*

- 3**  (▲) または  (▼) ボタンを押して、サブウーファーの位相を切り換える

 (▲) : Normal (正相)

 (▼) : Rev. (逆相)





- 4**  ボタンを押して、詳細設定モードを解除する


* サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えには切り換わりません。

クロスオーバー周波数を設定する

クロスオーバー周波数は、スピーカーサイズをSMALLに設定したスピーカーやサブウーファーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、SMALLに設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、カットされた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、カットされた低い音域はLARGEに設定したスピーカー（フロントまたはリア）から出力されるようになります。

- 1**  (AUDIO) ボタンを2秒以上押してから、 (AUDIO) ボタンを押し、クロスオーバー周波数モードを選ぶ





- 2**  (◀) または  (▶) ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ




ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー ↔ センタースピーカー
↔ リアスピーカー ↔ サブウーファー

- 3**  (▶) (▲) または  (◀) (▼) ボタンを押して、クロスオーバー周波数を選ぶ
63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。





- 4**  ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- サブウーファーのLPF（ローパスフィルター）と、スピーカーサイズをSMALLに設定したスピーカーのHPF（ハイパスフィルター）のクロスオーバー周波数を設定します。サブウーファーがOFFで、ほかのスピーカーのサイズがLARGEやOFFに設定されている場合、クロスオーバー周波数の設定は無効になります。
- スピーカー設定モード（52ページ）でOFFに設定したスピーカーを選ぶことはできません。

スピーカーレベルを調節する

テストトーンで調節した各スピーカーからの出力レベル (56 ページ) を、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

- 1**  (AUDIO) ボタンを2秒以上押してから、 (AUDIO) ボタンを押し、スピーカーレベル調節モードを選ぶ



- 2**  (←) または  (→) ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- フロントスピーカー (左)
- センタースピーカー
- フロントスピーカー (右)
- リアスピーカー (右)
- リアスピーカー (左)
- サブウーファー
- フロントスピーカー (左) に戻る


- 3**  (▲) または  (▼) ボタンを押して、レベルを調節する

 (▲) : レベルを大きくするとき

 (▼) : レベルを小さくするとき

レベルは-10から+10の範囲で調節できます。





- 4**  ボタンを押して、詳細設定モードを解除する



- ・ スピーカーレベル調節モードとテストトーンモード (56 ページ) の出力レベルは同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード (52 ページ) で OFF に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

テストトーンで スピーカーレベルを調節する

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節できます。スピーカーシステム全体のバランスを整えたいときに便利です。

- 1**  (AUDIO) ボタンを2秒以上押してから、 (AUDIO) ボタンを押し、テストトーンモードを選ぶ



- 2**   ボタンを押して、テストトーン出力を開始する



約2秒ずつ、次の順で切り換わり続けます。

- フロントスピーカー (左)
- センタースピーカー
- フロントスピーカー (右)
- リアスピーカー (右)
- リアスピーカー (左)
- サブウーファー
- フロントスピーカー (左) に戻る


- 3**  (▲) または  (▼) ボタンを押して、レベルを調節する

 (▲) : レベルを大きくするとき


 (▼) : レベルを小さくするとき

レベルは-10から+10の範囲で調節できます。



- 4**  (◀) ボタンを押して、テストトーン出力を停止する



- 5**  ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・ テストトーンモードとスピーカーレベル調節モード (55ページ) の出力レベルは同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード (52ページ) で OFF に設定したスピーカーには切り換わりません。
- ・ レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

タイムアライメントを切り換える

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節する機能です。出荷時にあらかじめ設定された値、お好みで設定した値、またはオートタイムアライメント&イコライジングで設定された値のなかから選べます。

- ▶▶ (AUDIO) ボタンを2秒以上押し
てから、▶▶ (AUDIO) ボタンを押し、
タイムアライメントモードを選ぶ



- ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押し
て、タイムアライメントの種類を選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

INIT ↔ CUSTOM ↔ AUTO TA ↔ OFF
表示とタイムアライメントの内容は、次のようになっています。

表示	タイムアライメントの内容
INIT	出荷時に調整された初期値
CUSTOM	お好みに合わせて調整した値
AUTO TA	オートタイムアライメント&イコライジング機能で設定された値 (60 ページ)
OFF	タイムアライメントをOFFにします

- BD/ESC ボタンを押して、
詳細設定モードを解除する

・ オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、AUTO TAは選べません。

タイムアライメントを調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション (47 ページ) を設定すると自動的に調節されますが、タイムアライメントではさらに厳密に調節できます。

タイムアライメントを調節するには

リスニングポジションモード (47 ページ) で F/L か F/R を選んでいないと、タイムアライメントを調節することはできません。

- ▶▶ (AUDIO) ボタンを2秒以上押し
してから、▶▶ (AUDIO) ボタンを
押し、タイムアライメント調節モ
ードを選ぶ



- ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押し
て、調節したいスピーカーを選ぶ





ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- フロントスピーカー (左)
- ← センタースピーカー
- フロントスピーカー (右)
- ← リアスピーカー (右)
- リアスピーカー (左)
- ← サブウーファー

次ページへつづく

3 (▲)または (▼) ボタンを押して、距離を調節する

 (▲) : 距離を遠くするとき

 (▼) : 距離を近くするとき

距離は0.0 cmから500.0 cmの範囲で調節できます。



4 ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・スピーカー設定モード(52ページ)でOFFに設定したスピーカーを選ぶことはできません。

オートイコライザーをON/OFFする


オートタイムアライメント&イコライジングで設定された値を、ON/OFFすることができます。

1 (AUDIO) ボタンを2秒以上押ししてから、 (AUDIO) ボタンを押し、オートイコライザーモードを選ぶ



2 (▲) ボタンを押して、オートイコライザーをONにする



 (▼) ボタンでOFFになります。

3 ボタンを押して、詳細設定モードを解除する

- ・オートタイムアライメント&イコライジングを行っていない場合は、オートイコライザーモードは操作できません。

オートタイムアライメント& イコライジングを行う前に

オートタイムアライメント&イコライジング (Auto TA&EQ) を行う前に必ずお読みください。



警告

運転中に Auto TA&EQ を行わない



禁止

自動車が走行中に Auto TA&EQ を行わないでください。Auto TA&EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因になることがあります。

リスニングポジションとスピーカー設定について

Auto TA&EQ を始める前に、スピーカーを設定し (52 ページ)、リスニングポジションを選択 (47 ページ) してください。

スピーカーの破損防止について

次の状態で Auto TA&EQ を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto TA&EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto TA&EQ 機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せず

に設定するのは困難な作業です。本機の Auto TA&EQ 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto TA&EQ により乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto TA&EQ を行う前にお読みください

- Auto TA&EQ は、なるべく静かなところで、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってから Auto TA&EQ を行ってください。計測音以外の音 (車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など) によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。
- Auto TA&EQ は、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、Auto TA&EQ が実行できなかつたり、車室内の音響特性が正しく測定できません。
- フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto TA&EQ が実行できません。
- フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto TA&EQ が実行できません。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto TA&EQ が実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターは OFF にして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、遮断周波数を最も高い値に設定してください。

次ページへつづく

- Auto TA&EQ 測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがあります。計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。
 - * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
 - * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。
- Auto TA&EQ を行うと、各モードの内容が次のように変更されます。
 - * 前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
 - * イコライザーカーブは、フラット (FLAT) になります。
 - * リスニングポジションは、F/R に設定されます。（ただし、F/L に設定していたときだけは、F/L のままです。）
 - * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。（サブウーファー出力を OFF にしていても、自動的に ON になり調節されます。）

Auto TA&EQ の調節内容について

- 一度 Auto TA&EQ を行ったあとに、再度 Auto TA&EQ を行うと、前の Auto TA&EQ の調節内容は消去されます。

オートタイムアライメント & イコライジングを行う

車室内の音響特性を自動的に計測して、最適になるように自動的に補正できます。

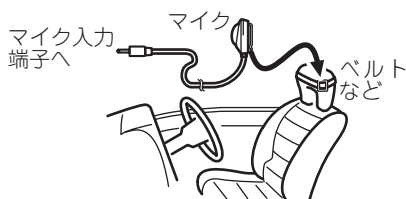
1 車の環境を整える

以下のように車の環境を整えてください。

- 静かなところに車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる
- エアコンやヒーターを OFF にする

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、「DEQ-P9」に付属のマイクを運転席のヘッドレストの中央に前向きに固定してください。



- ・ マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチを ACC または ON にする

- ・ 車のエアコンやヒーターが ON になっている場合は、OFF にしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によって Auto TA&EQ が実行できないことがあります。

4 **SRC** ボタンを押して、 本機の電源を入れる

5 乗車位置を決定する

▶▶ (AUDIO) ボタンを押してリスニングポジションモードを選び、マイクをセットした座席を乗車位置に設定してください。

- 乗車位置を F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto TA&EQ を始めると、強制的に F/R に再設定されます。

6 本機の電源を切る

SRC ボタンを 1 秒以上押して、電源を切ってください。

7 **▶▶** (AUDIO) ボタンを 2 秒以上押して、オートタイムアライメント&イコライジング設定モードにする



8 「DEQ-P9」にマイクを接続する

「DEQ-P9」に付属のマイクを、マイク入力端子に接続してください。

9 **▶▶** (▲) ボタンを押して、オートタイムアライメント&イコライジングを始める



- ▶▶** (▲) ボタンを押して Auto TA&EQ を始めてから測定が終了するまでに、約 4 分かかります。測定時間は、周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

10 車外に出る

10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。計測音 (ノイズ) が各スピーカーから出力され、オートタイムアライメント&イコライジングが始まります。

11 オートタイムアライメント&イコライジングが自動的に終了する

オートタイムアライメント&イコライジングが正常に行われると、「Complete」と表示されます。

- Auto TA&EQ を途中でやめなくなったときは、**ESC** ボタンを押してください。Auto TA&EQ 設定を強制的に解除して、電源 OFF になります。
- マイクをセットする位置により、Auto TA&EQ の調節内容が変わります。お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。

イコライザーカーブを使う

■ イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されているイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM1 について


CUSTOM1 には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。

CUSTOM2 について

CUSTOM2 は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

- 1  ボタンを押して、イコライザーカーブを切り換える



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

POWERFUL → NATURAL → VOCAL
→ FLAT → CUSTOM1
→ CUSTOM2 → SUPER BASS
→ POWERFULに戻る

■ 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する



CUSTOM1とCUSTOM2は、フロント/リア/センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きが切り換えられます。

イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカーです。このため、ほかのスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、まず2チャンネルの音声（CDなど）を再生し、センターを除くすべてのスピーカーのバランスを調節します。次に、5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節します。こうすると、全体のバランスがスムーズに調節できます。

中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

- 1  (AUDIO) ボタンを2秒以上押ししてから、 (AUDIO) ボタンを押し、イコライザー調節モードを選ぶ



- 2** ◀◀(◀)または▶▶(▶) ボタンを押して、調節したい項目を選ぶ



ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

スピーカー ↔ バンド ↔ 中心周波数
↔ レベル ↔ カーブの傾き

- 3** ▶▶(▲)または◀◀(▼) ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

FRONT (フロント)、CENTER (センター)、REAR (リア) の中から選ぶことができます。



- 4** ▶▶(▶) ボタンを押してから、▶▶(▲)または◀◀(▼) ボタンを押して、バンドを選ぶ

Low (低音)、Mid (中音)、High (高音) の中から選ぶことができます。



- 5** ▶▶(▶) ボタンを押してから、▶▶(▲)または◀◀(▼) ボタンを押して、中心周波数を選ぶ

▶▶(▲)：高い周波数を選ぶとき

◀◀(▼)：低い周波数を選ぶとき

40、50、63、80、100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k、10k、12.5k (H) の中から選ぶことができます。



- 6** ▶▶(▶) ボタンを押してから、▶▶(▲)または◀◀(▼) ボタンを押して、レベルを調節する

▶▶(▲)：強めるとき

◀◀(▼)：弱めるとき

レベルは-6から+6の範囲で調節できます。



- 7** ▶▶(▶) ボタンを押してから、▶▶(▲)または◀◀(▼) ボタンを押して、カーブの傾きを選ぶ

▶▶(▲)：Q.WIDE (緩やかな傾き)

◀◀(▼)：Q.NAR. (急な傾き)



- 8** 手順2～7を繰り返して、各スピーカーの各バンドを同様に調節する

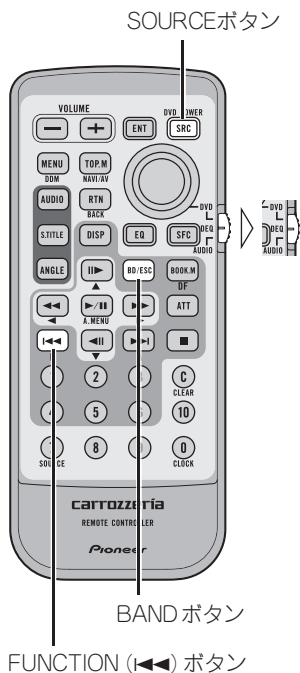
- 9** [BD/ESC] ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

・スピーカー設定モード(52ページ)でOFFに設定したスピーカーを選ぶことはできません。

初期設定モードの切り換えかた

リモコンの操作モードが DEQ モードの場合

- ・リモコンの操作モードが DEQ モードの場合、初期設定をすることができます。リモコンの操作モードが DVD モードや AUDIO モードの場合は操作できません。

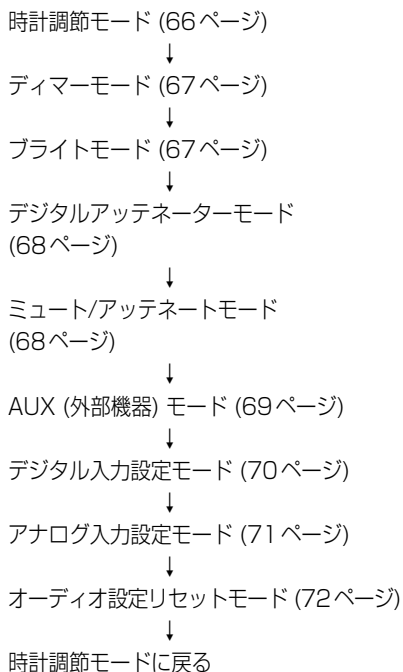



- 1** **SRC** ボタンを1秒以上押して、本機の電源をOFFにする (「電源をOFFにする」20ページ)
- 2** 電源がOFFのときに、**◀◀** (FUNCTION) ボタンを2秒以上押して、初期設定モードにする
初期設定モードが表示されます



3 (FUNCTION) ボタンを押して、初期設定モードを切り換える

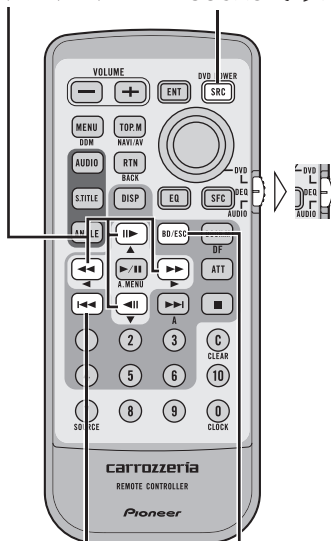
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



・初期設定モードを解除するには、 ボタンを押します。(解除すると、電源がOFFになります。)

初期設定

▲ (II▶)/▼ (◀II)
/◀ (◀◀)/▶ (▶▶) ボタン SOURCEボタン



FUNCTION (◀◀) ボタン

BAND ボタン

時計を合わせる

時計を合わせることができます。

1 電源がOFFのときに

◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押し、時計調節モードを選ぶ



2 時計を設定する

■ 時または分を選ぶ

◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押し、時または分を選ぶ

押すごとに、時または分が切り換わります。



■ 時刻を合わせる

II▶ (▲) または ◀II (▼) ボタンを押し、時刻を合わせる

II▶ (▲) : 時刻を進めるとき

◀II (▼) : 時刻を戻すとき

● 分を調節すると、0秒からカウントが始まります。





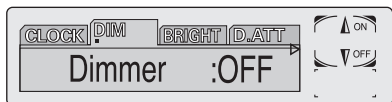
3 BD/ESC ボタンを押し、初期設定モードを解除する

夜間のディスプレイの明るさを調節する


夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなります。

1 電源がOFFのときに

 (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、 (FUNCTION) ボタンを押し、ディマーモードを選ぶ



2 (▲) ボタンを押して、ディマーをONにする

 (▼) ボタンでOFFになります。





3 ボタンを押して、初期設定モードを解除する

ディスプレイの明るさを調節する

ディスプレイの明るさを調節することができます。


1 電源がOFFのときに

 (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、 (FUNCTION) ボタンを押し、ブライモードを選ぶ



2 (←) または (→) ボタンを押して、明るさを調節する

 (←) : 暗くしたいとき

 (→) : 明るくしたいとき

0～15の範囲で調節できます。



3 ボタンを押して、初期設定モードを解除する

・ディマーをONにしているときは、ディスプレイの明るさの調整範囲は0～10になります。

音の歪みを補正する

イコライザーカーブの調整による音の歪みを抑制することができます。

1 電源がOFFのときに、

◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、◀◀ (FUNCTION) ボタンを押し、デジタルアッテネーターモードを選ぶ



2 ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押し、デジタルアッテネーターの設定を選ぶ

▶▶ (▶) : High

◀◀ (◀) : Low



3 BD/ESC ボタンを押し、初期設定モードを解除する

・イコライザーカーブの設定で、レベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、Lowに切り換えてください。(通常は音質が優れているHighのままお使いください。)

ミュート/アッテネート切り換え

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートするかアッテネートするかを選ぶことができます。

ミュート/アッテネート機能について

ミュート機能のある製品 (パイオニア製ナビゲーションシステムなど) と本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

MUTE (ミュート) :

音量 "0"

ATT1 (10 dB アッテネート) :

もとの音量の約 1/3

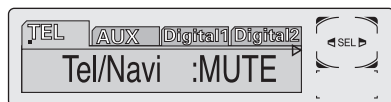
ATT2 (20 dB アッテネート) :

もとの音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 電源がOFFのときに

◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、◀◀ (FUNCTION) ボタンを押し、ミュート/アッテネートモードを選ぶ



2 ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押し、信号入力時の設定を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

MUTE ↔ ATT1 ↔ ATT2



3 BD/ESC ボタンを押し、初期設定モードを解除する

外部機器の音声を聞く

本機にDATやVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるDATやVTRを、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

パイオニア製ナビゲーションユニットを接続した場合

本機にパイオニア製ナビゲーションユニットを接続した場合、ナビゲーションユニット内蔵のDVDプレーヤーの音声はデジタルソースとして出力されます。

ナビゲーションユニット内蔵のTVとミュージックサーバーの音声は、接続のしかたによってAUXまたはアナログソースとして出力されます。(ガイド音声は車両のスピーカーからは出力されません。)

詳しくは、取付説明書をご覧ください。

1 電源がOFFのときに

◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押してから、◀◀ (FUNCTION) ボタンを押し、AUX (外部機器) モードを選ぶ



- 2 ▶▶ (▲) ボタンを押して、AUX (外部機器) の設定をONにする
◀◀ (▼) ボタンでOFFになります。



- 3 SRC ボタンを押して、ソースをAUXに切り換える (18ページ)

ソースをAUXに切り換えると、外部機器の音声が出力されます。



外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

- 1 **[SRC]** ボタンを押して、ソースをAUXに切り換える (18ページ)



- 2 **[◀◀]** (FUNCTION) ボタンを2秒以上押して、外部機器の名称入力モードを選ぶ



- 3 外部機器の名称を入力し、記憶させる

CDタイトル入力の手順3～6を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。(31ページ)

外部機器の名称は、8文字まで入力することができます。

例) “DAT” と入力した場合



“AUX” の表示のかわりに、入力した名称が表示されます。

デジタル入力を設定する

本機にパイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続したときに、デジタルソースとして使用することができます。

- Digital1とDigital2は初期設定でOFFになっています。

デジタルソースについて

デジタルソースとして使用できるのは、ナビゲーションユニットのDVD・CDやDVDソースのDVD・ビデオCD・CDなどです。

- 1 電源がOFFのときに

[◀◀] (FUNCTION) ボタンを2秒以上押してから、**[◀◀]** (FUNCTION) ボタンを押して、デジタル入力設定モード (Digital1) を選ぶ



- 2 **[▶▶]** (▲) ボタンを押して、デジタル入力 (Digital1) の設定をONにする

[▶▶] (▼) ボタンでOFFになります。



- 3 手順1～2を参照し、同様の操作でデジタル入力(Digital2)をONにする

- 4 **[BD/ESC]** ボタンを押して、初期設定モードを解除する

・ Digital1とDigital2は、独立してON/OFFすることができます。

アナログ入力を設定する

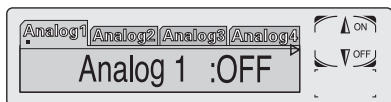
本機のスピーカ入力端子またはRCA入力端子にさまざまな機器を接続することができます。接続方法に応じて、アナログ入力の設定を切り換えてください。

アナログソースについて

アナログソースとして使用できるのは、ナビゲーションユニットのTV・ミュージックサーバーや純正カーステレオのソースなどです。

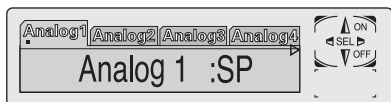
1 電源がOFFのときに

◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、◀◀ (FUNCTION) ボタンを押し、アナログ入力設定モード (Analog1) を選ぶ



2 ◀▶ (▲) ボタンを押して、アナログ入力 (Analog1) の設定をONにする

◀▶ (▼) ボタンでOFFになります。

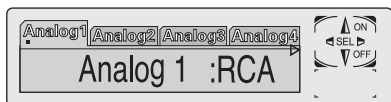


3 ◀◀ (◀) または ▶▶ (▶) ボタンを押して、接続方法の設定を選ぶ

▶▶ (▶) : RCA (RCA入力端子)

◀◀ (◀) : SP (スピーカ入力端子)

- 本機のスピーカ入力端子に接続しているときはSPを、RCA入力端子に接続しているときはRCAを選んでください。



4 手順1～3を参照し、同様の操作でアナログ入力 (Analog2～Analog6) を設定する

5 [BD/ESC] ボタン押して、初期設定モードを解除する

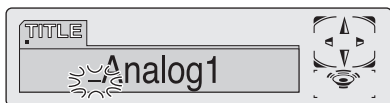
デジタル/アナログソースの名称を入力する

デジタルソースやアナログソースの名称を入力することができます。

- 1** **[SRC]** ボタンを押して、名称を入力したいソース (Digital 1、2 または Analog 1 ~ 6) に切り換える (18 ページ)



- 2** **[<<] (FUNCTION)** ボタンを2秒以上押し、デジタル/アナログソースの名称入力モードを選ぶ



- 3** 名称を入力し、記憶させる

CD タイトル入力の手順 3 ~ 6 を参照し、同様の操作でデジタル/アナログソースの名称を記憶させてください。
(31 ページ)

デジタル/アナログソースの名称は、8 文字まで入力することができます。

オーディオ設定をリセットする

オーディオ設定を出荷時の状態に戻すことができます。

リセットされる設定について

次の設定がリセットされます。

- ・オーディオ調節モードのドルビープロロジックIIの設定
- ・オーディオ詳細設定モードのすべての設定
- ・オートタイムアライメント&イコライジング設定モードで調節された値

次の設定はリセットされません。

- ・ドルビープロロジックIIを除く、オーディオ調節モードのすべての設定
- ・ボリューム
- ・初期設定モードのデジタルアッテネーターモードおよび TEL ミュート/アッテネーターモードの設定

- 1** 電源が OFF のときに

[<<] (FUNCTION) ボタンを2秒以上押ししてから、**[<<] (FUNCTION)** ボタンを押し、オーディオ設定リセットモードを選ぶ



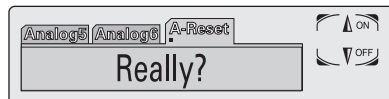
- 2** **[>>] (▲)** ボタンを押して、リセットを選ぶ


確認のため "Reset OK?" が表示されます。



- 3** **[>>] (▶)** ボタンを押して、リセットの確認をする


再確認のため "Really?" が表示されます。



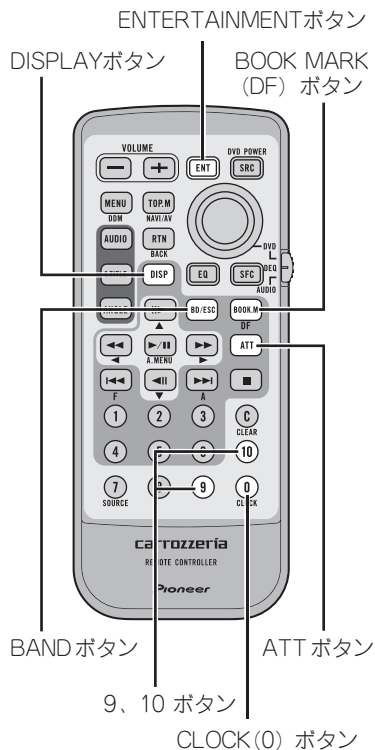
4  (▲) ボタンを押して、
リセットする

“Complete” が表示され、リセットが完了します。



5  を押して、
初期設定モードを解除する

その他の機能



瞬時に音量を小さくする

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 [ATT] ボタンを押して、瞬時に音量を小さくする (10~15ページ)

音量が約 1/10 になります。

もう一度押すと、OFF になります。



アッテネーターが ON のときに点滅します。

時計を表示させる

本機の電源のON/OFFにかかわらず、時計を表示させることができます。

1 ① (CLOCK) ボタンを押して、 時計を表示する

もう一度押すと、OFFになります。



時計表示

- ・ 本機の電源がONの場合は、時計表示のときにほかの操作をすると、時計表示は一度解除されます。その場合、5秒後に時計表示に戻ります。
- ・ 時計を合わせるには (「時計を合わせる」66 ページ)

エンタテインメントを表示させる

音楽などを聴いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメントに切り換えることで、いろいろな表示を楽しむことができます。

1 [ENT] ボタンを押して、 エンタテインメントを表示する

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

ソースアイコン (再生時間表示)
↓
バックグラウンドビジュアルモード1
↓
バックグラウンドビジュアルモード2
↓
バックグラウンドビジュアルモード3
↓
バックグラウンドビジュアルモード4
↓
ムービースクリーンモード1
(アビス)
↓
ムービースクリーンモード2
(ハイパーソニック)
↓
エンタテインメントクロック
↓
表示OFF
↓
ソースアイコン (再生時間表示) に戻る

リモコンコードの設定

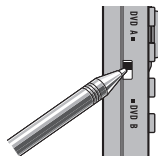
本機とパイオニア製ナビゲーションユニットを組み合わせたときに、付属のリモコンでパイオニア製ナビゲーションユニットをコントロールするために、リモコンコードを設定します。

リモコンコードには、コードA、コードB、コードAUDIO1、およびコードAUDIO2があります。

コード設定	設定内容
コードA	付属のリモコンでパイオニア製DVDプレーヤー（「XDVP9II」など）を操作するときは、この設定にします。
コードB	付属のリモコンでパイオニア製HDDナビゲーションサーバーを操作するときは、この設定にします。
コードAUDIO1	付属のリモコンでパイオニア製7.0型ワイドTV/MD・DSP AVパワーユニットを操作するときは、この設定にします。
コードAUDIO2	付属のリモコンでパイオニア製7.0型ワイドTV付DVD/CDユニット内蔵HDDナビゲーションシステムに付属のTVを操作するときは、この設定にします。

■ コードAとコードBの切り換え

- 1 リモコンの操作モード切り換えスイッチをDVDモードにする
- 2 リモコン左側面にあるリモコンコード切り換えスイッチを、ペン先などで切り換える



■ コードAUDIO1とコードAUDIO2の切り換え

- 1 リモコンの操作モード切り換えスイッチをAUDIOモードにする
- 2 リモコンの⑨と⑩ボタンを同時に押す



⑨と⑩ボタンを同時に押すごとに、コードAUDIO1とコードAUDIO2が順に切り換わります。
(初期設定はコードAUDIO1です。)

・ 操作したい機器のコードの設定と、本機に付属のリモコンコードの設定は同じにしてください。設定が異なっていると操作できません。

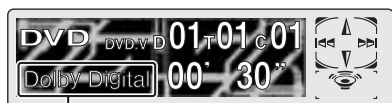
デジタル出力の情報を表示させる

本機にパイオニア製 DVD プレーヤー (「XDV-P9II」など) を接続した場合、デジタル出力の情報を画面に表示することができます。

1 **DISP** ボタンを押して、 デジタル出力の情報を表示させる

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

再生時間表示 ↔ デジタル出力情報表示
↔ 再生時間表示に戻る



デジタル出力情報表示

ドルビーデジタル再生時は、“Dolby Digital”が表示され、DTS再生時は“dts”が表示されます。

- ・ビデオCD再生時は、デジタル出力情報表示には切り換わりません。

よく使う機能を直接操作する

本機のリモコンでパイオニア製メインユニットを操作している場合、BOOK MARK (DF) ボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作できます。CDでポーズ、ラジオでBSMになります。

■ CDのとき

1 **BOOK.M** (DF) ボタンを押す

CD再生が一時停止します。

もう一度 **BOOK.M** (DF) ボタンを押すとOFFになります。

■ ラジオのとき

1 **BOOK.M** (DF) ボタンを2秒以上押す

BSMが始まります。

- ・BSM中に **BOOK.M** (DF) ボタンを押すことで、BSMを途中解除することができます。

故障かな?と思ったら

故障かな?と 思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



チェックしても 直らないときは

「保証書とアフターサービス」(81ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 (「取付説明書」参照)
ディスプレイが反転表示する。	リパースモードがONになっている。	リパースモードを解除してください。(17ページ)
リモコンで操作できない。 操作に合った正しい動作をしない。	リモコンの操作モードが間違っている。	リモコンの操作モードを正しく切り換えてください。 (10、12、14、16ページ)
	リモコンコードが異なっている。	リモコンコードを正しく切り換えてください。(76ページ)
	電池の残量が減っている。	新しい電池に交換してください。 (16ページ)
SRC ボタンを押しても警告音が鳴り、ソースが切り換えられない。	ソースが1つも接続されていない。	ソースを接続してください。 (「取付説明書」参照)
	パイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」、「SDV-P7」など)だけを接続していて、DVDプレーヤーにマガジンやディスクがセットされていない。	パイオニア製DVDプレーヤー(「XDV-P9II」、「SDV-P7」など)にマガジンやディスクをセットしてください。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (20ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (74ページ)
	前後左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (47ページ)
	接続が間違っている。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)

症状	原因	処置
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく調節してください。(52ページ)
	スピーカーのレベル設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスをとってください。(55ページ)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(52ページ)
スピーカーを調節できない。	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(52ページ)
タイムアライメントを調節できない。	リスニングポジションの設定が間違っている。	リスニングポジションを正しく設定してください。(47ページ)
	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(52ページ)
サブウーファーの位相が切り換えられない。	サブウーファーの設定がOFFになっている。	サブウーファーの設定をONにしてください。(52ページ)
低音域が聞こえない。	サブウーファーの設定がOFFで、それ以外のスピーカーのサイズ設定もOFFやSMALLになっている。	正しく設定してください。(サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーのサイズ設定は、LARGEにしてください。)(52ページ)
ドルビープロロジックIIをONにすると、音が出ないときがある。	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズ設定をSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーだけから音が出力されます。)(52ページ)
センタースピーカー以外のスピーカーから音が出ないときがある。	ドルビープロロジックIIがONになっている。	ドルビープロロジックIIをOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーだけから音が出力されます。)(50ページ)
ダイナミックレンジコントロールをONにしても効果がない。	再生しているソースがドルビーデジタル音声でない。	ドルビーデジタル音声にだけ有効な機能です。(48ページ)
DVDの音だけ出ない。	光デジタルケーブルが外れている。	「DEQ-P9」に、光デジタルケーブルを正しく接続してください。(「取付説明書」参照)

こんなメッセージが表示されたら

■ エラーメッセージ

メッセージ(エラー番号)	メッセージが表示されるとき	処置
「ERROR-02」	ディスクが汚れているとき。 ディスクにキズやひびがあるとき。	ディスクの汚れをふき取ってください。 ディスクを交換してください。
「TEMP」	別売のDVDプレーヤーの内部温度に異常があるとき。	別売のDVDプレーヤーが正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「ERROR-10」	リージョン番号が異なるディスクを使用しているとき。	リージョン番号「2」を含むDVDに交換してください。
「ERROR-11」	ディスクの裏表を逆にしてセットしているとき。 別売のDVDプレーヤーでは再生できないディスク(DVD AUDIOなど)を使用しているとき。	ディスクのタイトル面を上にしてセットしてください。 別売のDVDプレーヤーで再生できるディスクに交換してください。
「ERROR-05」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、ディスク再生を一度やめてから、もう一度、ディスク再生にしてください。

● 上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、接続した製品の説明書をご覧ください。

■ オートタイムアライメント&イコライジングのエラーメッセージ

メッセージ	メッセージが表示されるとき	処置
「Error check MIC」	マイクが接続されていないとき。	DEQ-P9に付属のマイクをきちんと差し込んでください。(61ページ)
「Error check FL SP」	スピーカーの計測音がマイク拾えないとき。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。(取付説明書)
「Error check FR SP」		
「Error check Front SP」		
「Error check Center SP」		
「Error check RL SP」		
「Error check RR SP」		
「Error check Rear SP」		
「Error check Subwoofer」	なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。	
「Error check Noise」	周囲の騒音レベルが高すぎるとき。	なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。付属のマイクを正しくセットしてください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

仕様

スペック

共通部

使用電源：

DC 14.4 V (10.8～15.1 V 使用可能)

アース方式：

マイナスアース方式

最大消費電流：

0.25 A

ディスプレイ部

(外形寸法)

119 (W) × 37 (H) × 20 (D) mm

(質量)

0.1 kg (コードユニット含まず)

ハイダウェイ部

(外形寸法)

100 (W) × 28 (H) × 136 (D) mm

(質量)

0.3 kg

付属品

リモコン

(リチウム電池 (CR2025) 付き) : 1

コードユニット : 1

取付ネジ類 : 1 式

取付金具 : 1 式

取扱説明書 : 1

取付説明書 : 1

安全上のご注意 : 1

保証書 : 1

ご相談窓口・修理窓口のご案内 : 1

- ・ 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

索引

メニュー索引

マルチCD	
リモコン モード ボタン DEQ ー	▶▶ (▲) 22ページ
	◀◀ (▼) 22ページ
	▶▶ (▶) 23ページ
	◀◀ (◀) 23ページ

リモコン モード ボタン DEQ ◀◀	リピート 26ページ
	タイトルリスト 34ページ
	ランダム 27ページ
	スキャン 27ページ
	ITS 再生 29ページ
	ポーズ 34ページ
	Comp.切り換え 35ページ

DVD	
リモコン モード ボタン DVD ー	▶▶ (▶) 37ページ
	◀◀ (◀) 37ページ
	BOOK.M 37ページ

リモコン モード ボタン DEQ ◀◀	リピート 39ページ
	ランダム 41ページ
	スキャン 42ページ
	ポーズ 43ページ

オーディオ設定	
リモコン モード ボタン DEQ ▶▶	リスニングポジション 47ページ
	音量バランス 47ページ
	SLA 48ページ
	ダイナミックレンジ 48ページ
	ダイレクト 49ページ
	ドルビープロロジックII 49ページ
	ダウンミックス 51ページ

再生中に
▶▶ (AUDIO) ボタンを押して、操作を始める

オーディオ 詳細設定	
リモコン モード ボタン DEQ ▶▶	スピーカー設定 52ページ
	クロスオーバー周波数 54ページ
	スピーカーレベル調節 55ページ
	テストトーン 56ページ
	タイムアライメント 57ページ
	タイムアライメント調節 57ページ
	オートイコライザー 58ページ
	イコライザー調節 62ページ

再生中に
▶▶ (AUDIO) ボタンを2秒以上押して、操作を始める

オートタイムアライメント& イコライジング 59、60ページ

本機の電源がOFFのときに
▶▶ (AUDIO) ボタンを2秒以上押して、操作を始める

初期設定	
リモコン モード ボタン DEQ ◀◀	時計調節 66ページ
	ディマー 67ページ
	ブライト 67ページ
	デジタルアッテネート 68ページ
	ミュート/アッテネート 68ページ
	AUX (外部機器) 設定 69ページ
	デジタル入力設定 70ページ
	アナログ入力設定 71ページ
	オーディオ設定リセット 72ページ

本機の電源がOFFのときに
◀◀ (FUNCTION) ボタンを2秒以上押して、操作を始める

索引

■ 用語索引

あ

アナログソース	7、71
オートイコライザー	58
オートタイムアライメント&イコライジング	59、60

か

クロスオーバー周波数	54
------------------	----

さ

スキャン再生	
マルチCD.....	27
DVD.....	42

た

タイトルリスト	34
タイムアライメント	57
ダイナミックレンジコントロール	48
ダウンミックス	51
テストトーン	56
デジタルソース	6、70
ドルビーデジタル	17
ドルビープロロジックII	49

は

ブックマーク	37
ポーズ	
マルチCD.....	34
DVD.....	43

ら

ランダム再生	
マルチCD.....	27
DVD.....	41
リスニングポジション	47
リバースモード	17
リピート再生	
マルチCD.....	26
DVD.....	39
リモコンコード	76

アルファベット

AUDIO モード	14、17
CD TEXT	33
Comp.	35
DBE	35
DEQ モード	12、17
DTS	17
DVD モード	10、16
ITS	28、29、30
SFC	46



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

バイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

● ホームページ

商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html>

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9：30～17：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

- カーオーディオ／カーナビゲーション製品のご相談窓口 : ☎ **0070-800-8181-11**
: 【一般電話】 **03-5496-8016**
- 家庭用オーディオ/ビジュアル製品 (PDP・DVDなど)のご相談窓口 : ☎ **0070-800-8181-22**
: 【一般電話】 **03-5496-2986**
- カタログのご請求窓口 : ☎ **0070-800-8181-33**
カタログ請求とメールサービス登録のご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html>
- ファックス受付 : **03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付 月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

電話 : ☎ **0120-5-81095**
: 【一般電話】 **0538-43-1161**
ファックス : ☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付 月曜～金曜 9：30～20：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話 : ☎ **0120-5-81028**
: 【一般電話】 **03-5496-2023**
ファックス : ☎ **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 : 【一般電話】 **098-879-1910**
ファックス : **098-879-1352**

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2004

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

< KMIZF > < 04C00000 > < CRA3628-B >